

平成27年度

地域貢献活動報告書



群馬県立県民健康科学大学



群馬県立県民健康科学大学

地域社会と交流を図り、ともに

特に優れた地域貢献

県立病院連携事業

各病院が抱える課題解決に向け組織レベルで展開



- > 新人看護師への支援力向上(着)
- > 専門職者向け講演会(放)



- > 看護シレンマへの対応方法(着)
- > 専門資格の取得及び更新に関する支援(放)



- > 医療観察法病棟での看護実践(着)
- > 環境放射線測定支援(放)



共通テーマ

- > 4病院共通看護マネジメントラダーの作成(着)
- > 共同研究を通じた人材育成と大学への知の還元(放)
- > 備品の長期貸出(放)



- > 先輩看護職全員による新人看護職教育への参加(着)
- > 放射線に関する講演会の開催(放)
- > 放射線に関する安全管理教育研修への講師派遣(放)



看護学分野

- 看護学教員養成課程
- 看護職研究支援事業

- 県立
- 教育
- 地域

県立の医療系大学として、産や研究成果などを、医療従事者、行政など、**県民の保健・医療・福祉**

桃の木リバーを愛する会

「桃の木リバー」を愛する会として、1981年に設立された地域住民の団体。毎年、4月には「桃の木リバーまつり」を開催し、多くの市民が参加しています。また、環境美化活動や、水質調査などを行っています。現在は、環境美化活動を中心に、水質調査や、水質改善のための活動を行っています。また、環境美化活動を中心に、水質調査や、水質改善のための活動を行っています。

群馬県立県民健康科学大学

「桃の木リバーの未来を共に創ろう」をテーマに、地域住民と連携して活動しています。また、環境美化活動や、水質調査などを行っています。現在は、環境美化活動を中心に、水質調査や、水質改善のための活動を行っています。また、環境美化活動を中心に、水質調査や、水質改善のための活動を行っています。

芳賀地区収穫祭

血圧測定やバルーンアートで参加しました

リ・フ・ォー・ライ・フ・ィ・ャ・ン2014ぐんま

目指す地域貢献

学生と教職員が三位一体となって取り組む地域貢献

大学 地域連携センター 2015

に発展することを目指して

個性ある地域貢献

看護学教員養成課程

- 県内の看護師等養成所の看護学教員や医療現場で看護学教育の実践指導者を担当する者への教育機会の提供
- 大学の理念を貫くカリキュラムによる本学ならではの教育展開



学部教育(看護技術学演習)の参加観察

放射線教育・研修事業

- 学習指導要領の改訂に伴う学校教員等に対する放射線教育の支援
- 診療放射線技師の画像技術向上、MRI専門技術者の資格取得を視野に入れた継続教育の実施



「国際協力型先端医療医学 物理学指導者コース講演会」

本学におけるMRI講習会

看護研究支援事業

- 「看護研究セミナー」と「看護研究個別支援」による看護職者への研究活動の支援
- テーマに合わせた担当教員の決定、10か月にわたる個別支援



講演 研究計画書の作成 講演 文献検索と文献採り 講演 研究にまつ疑問 看護研究個別支援

「看護研究セミナー」と「看護研究個別支援」

教育普及事業

- 県民向けの「公開講座」「公開授業」「出前講座」により本学の教育と研究成果を県民に直接的に還元



公開講座

公開授業:「群馬県民の文化と生活」「環境と健康概論」「人間の発達と健康概論」

出前講座:平成27年度43講座登録、希望に応じて展開

H24年度 6641名参加・H25年度 3783名参加・H26年度 3361名参加

診療放射線学分野

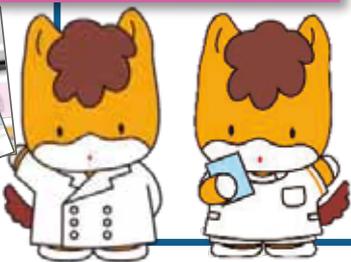
- 放射線教育・研修事業
- 放射線測定協力事業

病院連携事業

普及事業
連携推進事業

て、大学が所有する知的財産を県民をはじめ広く関係機関、に対し還元することにより、福祉の向上に寄与する

貢献の方向性



- ◆一般住民・団体を対象とした講演・研修
- ◆保健医療専門職を対象とした講演・研修
- ◆行政組織での活動
- ◆他の教育機関における非常勤講師
- ◆出前なんでも講座の講師
- ◆県立高等学校等への出張講義
- ◆桂萱地区・芳賀地区住民との協働

県への貢献 ほか

－平成 27 年度地域貢献活動報告書の発刊に寄せて－



本学は、「群馬県立県民健康科学大学」という名称が表わしますように、群馬県民の健康の向上を中核におき、県民本位の保健医療専門職を養成するという形で地域貢献に努めております。この大学の役割の一つ“社会貢献”を着実に果たすため、より組織的な取り組みを実施する拠点として発足した「地域連携センター」は、4年が経過しました。この1年間に寄せられました関係者の皆さまからのご支援とご協力に、心から感謝いたします。

平成 27 年度の報告は、地域連携センターの機能が充実してきたことを示しています。

「教育普及事業」は、公開講座、出前なんでも講座、公開授業の3種類の事業を展開しました。このうち、「出前なんでも講座」は、延べ 6,093 名の県民を対象に 107 回実施しました。これは、講座全体の 30% を本学教員が担当したことを意味しています。また、昨年度から開始した3科目の「公開授業」には、延べ約 200 名が受講しました。いずれの事業も、熱心な地域住民の参加により好評を博しております。県民の健康で豊かな生活に資する多くのメニューが県民のニーズに合致していたと考えられます。

また、新機軸として「健康福祉政策事業」を打ち出しました。群馬県健康福祉部と大学が情報を交換し、保健医療施策に関する課題に共に取り組むものです。27 年度は、「看護師等養成所教員育成プログラム作成」、「群馬県保健所等における X 線発生装置の精度管理について」に取り組みました。

「看護学教員養成課程」は、厚生労働省による専任教員養成講習会の認定を受け、本学の理念を貫くカリキュラムを編成し教育を展開しています。大学の人的・物的環境を最大限に活かした授業展開が大きな特色であり、平成 27 年度は 20 名の修了生を輩出しました。今年度より実施した公開授業は、修了生の継続教育の機会にもなりました。

「県立病院連携事業」は、県立 4 病院の看護および診療放射線部門が抱える課題解決に向け、教員と連携し計 5 テーマの取り組みを継続しています。

「看護職研究支援事業」は、看護研究を実施する際に必要な基礎知識を習得するためのセミナーと研究テーマに沿った個別支援を行いました。定員を上回る参加者があり、高い満足度を得ています。平成 27 年度も、新規 9 グループと継続 7 グループの参加者が目標を達成しました。

「放射線教育・研修事業」は、本学の MRI 装置を活用し、診療放射線技師の撮像技術向上を旨とした研修会や、MRI に関する研究会と共同研究を行いました。また、診療放射線技師の業務拡大に伴い、新たに「群馬県診療放射線技師会講習支援事業」を行いました。「放射線測定評価事業」は汚染状況重点調査地域アンケート調査と要請のあった市への測定支援を実施し、県民に安全、安心の情報提供を図りました。

「地域連携推進事業」は、Newsletter の発行により、担当者からの事業報告に加え、「開学 10 周年を迎えた地域貢献活動の変遷」、「健科大ぐんまちゃんの健康アドバイス」などを報告しました。

地域連携センターは、今後も大学と地域を結ぶ窓口となり、地域の方々や関係機関、関係職種などに、大学の持つ種々の資源を積極的に活用して頂き、地域社会との交流を進め、ともに発展することを目指してまいります。

この報告書には、地域連携センターの組織体制や規程に加え、学生・教員・事務局職員による多様な地域貢献活動も掲載しております。皆さまに本学をご理解頂く一助としてご活用頂ければ幸いです。

平成 28 年 10 月

地域連携センター長 横山京子

目 次

I	地域連携センターの活動	
1.	地域連携センター事業	02
2.	事業報告	
1)	看護学教員養成課程	04
2)	県立病院連携事業	06
3)	看護職研究支援事業	08
4)	放射線教育・研修事業	10
	放射線治療講習会	
	学校における放射線教育支援事業	
	診療放射線技師継続教育等事業	
	群馬県診療放射線技師講習会支援事業	
	診療放射線技師研究支援事業	
5)	放射線測定協力事業	17
6)	教育普及事業	19
7)	地域連携推進事業	24
II	その他の地域貢献活動	
1.	学会活動	36
2.	一般住民・団体を対象とした講演・研修	42
3.	保健医療専門職を対象とした講演・研修	44
4.	行政組織での活動等	50
5.	任意団体での活動等	52
6.	他教育機関非常勤講師	55
7.	報道記事	58
III	関連規程	
	・群馬県立県民健康科学大学地域連携センター設置運営規程	60
	・群馬県立県民健康科学大学地域連携センター運営会議 及び地域連携センター運営委員会設置運営細則	62

I 地域連携センターの活動

1 - 1. 地域連携センター事業

設置概要

本学はこれまで、看護師、保健師及び診療放射線技師の養成校として、臨床現場で活躍できる多くの医療専門職を育成することで、地域の医療水準及び県民の健康水準の向上に貢献してきました。そのような中、平成19年の学校教育法の改正等により、「社会貢献」が「教育」、「研究」に次ぐ大学の第3の役割に位置づけられたことを踏まえ、本学においても、これまで以上に地域貢献を推進するため、平成24年4月に大学附属機関として、地域連携センターを設置しました。

本学地域連携センターは、県立の医療系大学として、大学が所有する知的財産や研究成果等を、県民をはじめ、広く教育機関、医療機関、医療従事者、行政等に対し還元することにより、県民福祉の向上に寄与することを目的として、地域貢献に関する各種事業に取り組みます。

地域連携センター運営会議構成員一覧

区 分		氏名
委員長	地域連携センター長	横山 京子
副委員長	地域連携副センター長	松田 安弘
	地域連携副センター長	小倉 明夫
委員	看護学部長	齋藤 基
	診療放射線学部長	柏倉 健一
	看護学教員養成課程	高橋 裕子
	県立病院連携事業（看護学部）	田村 文子
	県立病院連携事業（診療放射線学部）	上原 真澄
	看護職研究支援事業	中西 陽子
	放射線教育・研修事業 学校における放射線教育支援事業	河原田 泰尋
	放射線教育・研修事業 放射線治療講習会事業	佐々木 浩二
	放射線教育・研修事業 診療放射線技師継続教育等事業	小倉 明夫
	放射線教育・研修事業 群馬県診療放射線技師会講習支援事業	五十嵐 博
	放射線教育・研修事業 診療放射線技師研究支援事業	小倉 敏裕
	放射線測定協力事業	倉石 雅彦
	教育普及事業	青木 武生
	地域連携推進事業	肥後 すみ子
	健康福祉政策事業	巴山 玉蓮
	事務局	福田 忠史
	(県健康福祉部健康福祉課)	川原 武男
	(学外有識者：県看護協会)	小川 恵子
	(学外有識者：県診療放射線技師会)	町田 利彦
	(学外有識者：県医師会)	下城 茂雄
(学外有識者：県立心臓血管センター)	大島 茂	
(学外有識者：県立伊勢崎高等学校)	三好 功悦	

事業一覧

事業名	事業概要
看護学教員養成課程 P4～5	県内20校ある看護師養成所等の看護学教員や医療現場で看護学教育の実践指導を担当する者を対象とし、教育者としての役割を十分遂行できるような知識および技術を習得することを目的とした講義・演習・実習を実施する。大学としての取り組みは全国で4か所目で、看護師等養成所の教員レベルの維持向上を図る。
県立病院連携事業 P6～7	県立4病院（心臓血管センター、がんセンター、精神医療センター、小児医療センター）と県民健康科学大学で、各病院が抱える課題について、その解決に向けた具体的な連携事業を組織レベルで展開する。
看護職研究支援事業 P8～9	看護師、保健師等の看護職者を対象にした研究活動を支援する事業を行い、県内保健医療福祉施設等に従事する看護職者の研究水準の向上を図る。
放射線教育・研修事業 P10～16	<p>(1) 放射線治療講習会 がんプロフェッショナル基盤養成プランの一つとして、筑波大学が中心に取りまとめている「国際協力型がん臨床指導者養成拠点」事業に沿って、放射線治療教育プログラムのセミナーを開催する。これを通じて、治療技術の普及や向上とともに、がんの早期発見に繋がる検診への関心を高める。</p> <p>(2) 学校における放射線教育支援事業 学習指導要領の改訂により平成24年度から放射線教育が学校教育に導入されることに伴い、学校教員を対象にした放射線教育講座を実施し、放射線教育を行う学校教員を支援する。</p> <p>(3) 診療放射線技師継続教育等事業 県内診療放射線技師の撮像技術向上事業として、「MRI専門技術者」資格の取得を視野に入れた講習会等を開催するほか、MRIを用いた共同研究と研修会を実施する。これらにより、診療放射線技師が最新の知識・技術を習得できるようにし、がん等の疾病の早期発見の機会の増加を図る。</p> <p>(4) 群馬県診療放射線技師会講習支援事業 診療放射線技師の業務拡大に伴い、群馬県診療放射線技師会で行われる注腸造影検査および静脈注射（針刺しを除く）に関する講習会へ講師の派遣を行い、地域の診療放射線技師の技術向上に貢献する。</p> <p>(5) 診療放射線技師研究支援事業 診療放射線技師の各施設での研究を支援する研究会を開催し、研究方法、論文作成法等について知的支援を行う。</p>
放射線測定協力事業 P17～18	県や市町村が行う放射線測定のための指導や評価、対策の実施等について支援を行い、線量評価等を通じて、県民に安全安心の提供を図る。
教育普及事業 P19～23	県民向けの公開講座、講演会及び公開授業等の事業を行い、地域貢献活動を積極的に行う。
地域連携推進事業 P24～33	地域連携センター Newsletter 及び地域貢献活動報告書を発行し、本センターの活動を広く県民に周知するとともに、ボランティア活動の活性化を図る。また、共愛学園前橋国際大学COC+「C3GP」の協力校として活動する。健康福祉政策事業では、群馬県健康福祉部との情報交換会を開き、提示された課題と教員の研究テーマ等のマッチングを行う。さらに、文部科学省課題解決型高度医療人材養成プログラムとして群馬大学が実施する「群馬一丸で育てる地域完結型看護リーダー事業」への協力など、地域に根ざした取り組みを行う。

看護学教員養成課程

担当者 看護学部 ◎高橋(裕)講師、松田教授、岩波准教授

事業目的・内容

県内および県外の看護師養成教育機関の看護学教員や臨床現場で教育的役割を担う教育担当者を対象とし、看護基礎教育に携わる教育者としての役割を遂行するために必要な知識及び技術を教授します。

本課程は、大学主体で看護基礎教育に携わる教育者の教育実践能力の維持向上に関わる事業として取り組んでいます。また、看護学教員が継続的に学び続けられるような体制づくりに努めます。

実施結果

1. 平成 28 年度看護学教員養成課程学生募集（募集定員 20 名）

本学ホームページ、および上毛新聞、群馬県広報に課程生募集の案内掲載

看護学教員養成課程の紹介リーフレットを作成し、関東甲信越・東北地方の3年課程看護師養成教育機関への課程生募集の案内送付

入学者選抜試験：平成 28 年 1 月 19 日（火）

→ 出願者：28 名 入学予定者：20 名

2. カリキュラム、授業計画に沿った授業の実施

①実施授業科目 20 科目（基礎分野 5 科目、専門科目 15 科目）

②総カリキュラム時間数：1770 時間（自己研修を含む）

③教育実習

看護学教育授業展開論Ⅱ（講義）・

看護学教育授業展開論Ⅳ（実習）

実施期間：平成 27 年 10 月 13 日（火）～ 11 月 27 日（金）

県内看護師養成教育機関において講義

本学、県内看護師養成機関において実習

3. 公開授業

看護学教育授業展開論Ⅱ（講義）

日程：平成 27 年 7 月 27 日（月）Ⅰ・Ⅱ限、28 日（火）

Ⅰ・Ⅱ限

→ 学外参加者 41 名 学内参加者 7 名

看護学教育授業展開論Ⅲ（演習）

日程：平成 28 年 1 月 7 日（木）Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ限

→ 学外参加者 47 名 学内参加者 6 名

4. 平成 27 年度看護学教員養成課程修了式

日程：平成 28 年 2 月 26 日（金）修了生：20 名

修了後は看護師養成教育機関の教員、または病院の教育担当者として勤務

5. 厚生労働省「教育訓練給付金制度（一般教育訓練）」指定講座認定

→ 該当者 1 名

6. 厚生労働省への報告書作成、および次年度の申請



7月の公開授業



1月の公開授業

事業成果・効果

学生は、大学という恵まれた環境の中で看護学教育に関する豊かな知識や経験を持つ教員から授業を受けることができました。

修了生は本課程独自のカリキュラムに基づき、11ヶ月間学習活動を積み重ねることにより、看護学教員として、また病院の教育担当者として自信をもって活躍しています。修了生、県内看護専門学校教員への公開授業の開催は、看護学教員が継続してスキルアップをするための機会となりました。これらを通し、群馬県の看護基礎教育の質向上にも貢献できたと考えます。

また、受験者が昨年度18名（1次募集）から今年度28名に増加したことは、修了生の活躍により本課程の教育効果が認知されてきたことや本課程への期待を表していると考えます。

事業の課題及び改善の方向性

カリキュラム内容、進度、シラバス等について検討しながら、課程生がより効果的に学習できるよう教授活動を展開することにより、看護学教員養成課程事業の推進を図ります。主に使用している27演習室の狭さ、演習室の確保など、学習環境を調整することが課題です。

また、看護学教員の継続教育の機会提供を継続し、県内の看護学教育の充実、発展につなげていきます。さらに、受講生の確保のために教育活動の情報を、ホームページ等を通じて積極的に公開していきたいと考えています。

県立病院連携事業

担当者 看護学部 ◎田村教授、山下教授、廣瀬准教授、清水准教授、大川講師、富永講師、
木村講師、佐藤助教、浅見助教
診療放射線学部 ◎上原教授、高橋准教授、渡部講師

事業目的・内容

これまでの県立4病院と県民健康科学大学の連携事業の成果を明らかにします。その結果をもとに、連携事業の内容を整理し、次年度の連携事業の活動に活かします。

実施結果

看護部門

1. 精神医療センター

本年度は、4月～8月まで思春期領域准教授が欠員であったため、連携テーマを検討する年度として、試行的に大学の授業の聴講、精神医療センター看護師の体験談、龍野准教授の倫理研修会と単発事業を実施しました。

①大学の授業の聴講

日時：H27年6月17日（水）・24日（水）、
7月1日（水）（9:00～12:10）

場所：本学22講義室

内容：本学3年生の生涯発達看護学各論Ⅲ（看護過程演習）聴講

②精神医療センター看護師の体験談

日時：H27年7月30日（木）（13:00～14:30）

場所：本学21講義室

内容：看護学部2年生「人間の発達と健康」各論Ⅲ（思春期・青年期）

ゲストスピーカー：白石由佳利 看護師（本学卒業生：卒後3年目）

～精神科看護師としての学び～

③倫理研修会

日時：H27年12月5日（土）（9:00～12:00）

場所：精神医療センター

講師：看護学部 龍野准教授

テーマ：精神科看護の事例を通じた倫理的な課題の検討

参加者：看護師45名

2. 小児医療センター

「先輩看護職全員による新人看護職教育への参加」新人看護職と先輩看護職への研修に関する情報交換、打ち合わせ及び学習機会の場の提供を行いました。

【実施状況】

H27年 7月28日 「多重課題研修」打合せ

9月11日 多重課題研修（参加者 看護職11名、指導者8名）

10月6日 「プリセプター研修」打合せ

H28年 2月19日 「プリセプター研修」会議

3月4日 プリセプター研修（参加者：プリセプター予定者19名、指導者5名、教育担当師長1名）

診療放射線部門

診療放射線部門においては、テーマ毎に、ニーズ調査、大学教員とのマッチング及び来年度の実施に向けた打合せ会議等を実施しました。

1. 「共同研究などを通じた人材育成と大学への知の還元」＜4 病院共通＞
小児医療センターにおいて本学の教員による研究支援を行い日本小児多職種研究会(H27年7月19日・20日、北九州市：北九州国際会議場)において次の演題で研究発表が行われました。「小児 A i における MR I の有用性 ー第 2 報ー」心筋血流 SPECT における収集時間の検討」
2. 「備品の長期貸出」＜4 病院共通＞
群馬県立心臓血管センターへ放射線機器の性能評価および機器の管理目的でオシロスコープ、摺動抵抗、高周波発生装置を貸し出しました。
群馬県立心臓血管センターへ膝関節撮影技術向上のための研究実施のため膝関節ファントムを貸し出しました。

事業成果・効果

看護学部門においては、精神科看護における事例を通じた倫理の課題、および従来の新規採用者臨床看護研修プログラムの見直しと最終的には新人看護職研修の充実と先輩看護職の相談機能の充実という課題解決に向けた研修会の開催を中心に行った。それぞれの研修会は、臨床の看護職の意識改革に貢献できたと考えられます。

診療放射線部門においては、研究支援を中心に行った結果、直接支援した研究以外にも全国大会レベルの発表が数多くなされ、研究活動の活性化を見ることができた。また、研究に必要な物品を貸し出すことができ研究の効率化及び質の向上に貢献できた。これらの看護・診療放射線部門の活動を通じて、県立病院の医療サービスの向上に寄与することができたのではないかと考えられます。

事業の課題及び改善の方向性

県立病院が抱える課題の解決や大学の研究機能・技術の活用を一層充実させるために、理論(研究)と現場(実践)という観点から、大学からその解決支援という形で、県立病院と本学が連携して取り組みを発展させる必要があります。看護学部門では、病院のニーズを焦点化するとともに、大学の教育的な役割を模索していきます。新人看護職を支える病棟指導者の教育的支援に対する意識は徐々に高まっており、継続して新人看護職と先輩看護職への研修に資する情報や学習機会の提供及びコンサルテーションを行っていきます。

診療放射線部門では平成 27 年度に実施した事業を引き続き取り組みます。特に、研究支援事業に重点を置いた取り組みを行いたいと考えています。事業効果を最大限に得るために県立病院と密に連絡を取り合いながら事業を進めていく必要があります。

1 - 2. 事業報告

看護職研究支援事業

担当者 看護学部 ◎中西教授、狩野教授、飯田准教授、高橋(さ)講師、鈴木講師、松嶋講師、橋本講師、福島講師

事業目的・内容

群馬県内の病院、行政機関、健診機関、訪問看護ステーション、福祉施設、事業所等に所属する看護師、保健師、助産師を対象とし、研究活動を支援することを目的に、下記の事業を行います。

看護研究セミナー

看護研究を実施する際に必要な研究の基礎的知識を習得するための講義・演習をします。

看護研究個別支援

看護研究の一連の流れを、支援教員の個別指導のもと学習・体験します。

実施結果

1. 看護研究セミナーの実施
 - ・第1回講義「看護研究計画書の作成」(岩波准教授)
 - ・第2回講義・演習「看護研究のための文献検索と文献検討」(狩野教授)
 - ・第3回講義「看護研究における倫理と手続き」(肥後教授)
2. 看護研究個別支援の実施
9つの研究課題に対して、支援担当教員を各1名及び2名配置し、10ヶ月間の研究個別支援を行いました。
3. 看護研究個別支援(継続)の実施
平成26年度に個別支援を行った8グループのうち、継続支援の希望があった7グループに対し、各支援担当教員が継続して研究個別支援を行いました。
4. 研究成果報告会の開催
平成25年度及び平成26年度の個別支援・継続支援を受けた対象者及びグループの中から3つのグループの研究成果と活動プロセスについての報告会を実施しました。



看護研究セミナー第3回「看護研究における倫理と手続き」GWの様子(H27.5.10実施)



看護職研究支援事業成果報告会の様子(H27.5.10実施)

事業成果・効果

1. 看護研究セミナーは、平成27年4月29日及び5月10日に開催しました。各セミナーの定員40名に対し、1回目44名、2回目44名、3回目42名の応募がありました。参加率は、1回目は97%、2・3回目は100%であり、本事業への受講者の期待が感じられました。受講後のアンケート結果からも、各セミナーへの満足度が高く、セミナーの内容についても充実した内容であったとの評価が伺えました。県内看護職者の看護研究への関心及び研究スキルの基礎的能力向上につながりました。
2. 看護研究個別支援は、看護研究セミナーの全てを受講した者の中で、研究課題を持ち、個別支援を希望する個人及び小グループを再度募集し、申請のあった9グループに対して行いました。内訳は、県内病院(県立3病院、その他4病院)から申請があった7グループ及び、事業所2グループでした。支援教員の個別指導のもと、各施設に就業する看護職者が各々の施設での看護実践の中で抱える問題に着目した研究課題を明確にし、10ヶ月間にわたり研究活動を進めました。1グループあたり複数回の支援教員の直接

指導を行い、その成果をまとめています。成果の公表として、院内研究発表会での発表、次年度の県内学会、国内学会への成果発表を予定しています。これらの成果が、看護の質の向上に直結し、県民の保健医療福祉の充実の一端を担うことに貢献します。

3. また、昨年度の個別支援グループの中から、希望するグループに対する継続個別支援を実施しました。昨年度の個別支援の8グループのうち、7グループが継続個別支援の申請を行い、研究のまとめや院内発表、学会発表に向けて、研究活動を継続しました。今年度は、継続支援グループのうち1グループが学会で優秀発表賞受賞という成果が報告されました。
4. 今年度から新たな試みとして、研究成果報告会を開催しました。平成26年度の個別支援・継続支援を受けた対象者及びグループの中から3つのグループ（県内病院1グループ、事業所2グループ）の研究結果と活動プロセスについての報告会を実施しました。参加者の中には、看護研究セミナーの受講者21名が参加し、過去の受講者の方の研究成果及び研究活動のプロセスを実際に見聞することにより、研究個別支援につなげる動機づけとなりました。

事業の課題及び改善の方向性

本事業は、受講者が主体的に研究活動に取り組むことを前提に研究支援を行っていますが、研究の進捗や取り組みにグループ差が大きいです。今後、受講者の主体的取り組みの促進について検討する必要があります。

また、今年度は、個別支援を受けた対象者及びグループの中から、研究活動のプロセスとその成果を発表する場を設けました。過去の受講者の方々の成果発表が次の個別支援受講者の主体的取り組みへの動機づけにつながり、今後も継続して行う予定です。

1 - 2. 事業報告

放射線教育・研修事業（放射線治療講習会）

担当者 診療放射線学部 ◎佐々木教授、河原田教授、小倉（敏）教授、小倉（明）教授、五十嵐准教授、大野准教授、長島准教授、林講師、谷口助手

事業目的・内容

がんプロフェッショナル基盤養成プランの一つとして、筑波大学が中心に取りまとめている「国際協力型がん臨床指導者養成拠点」事業に沿って、放射線治療教育プログラムのセミナーを開催します。これを通じて、治療技術の普及や向上とともに、がんの早期発見に繋がる検診への関心を高めます。

実施結果

「国際協力型がん臨床指導者養成拠点」事業への参画

1. 第1回「国際協力型 先端医療医学物理学 指導者コース講演会」

開催日：平成 27 年 11 月 28 日（土）

開催場所：群馬県立県民健康科学大学

参加者：県内外の診療放射線技師、医学物理士、機器開発者（45 名）

内容：Flattening Filter Free (FFF) Photon Beam の測定と臨床利用

第2回「国際協力型 先端医療医学物理学 指導者コース講演会」

開催日：平成 28 年 2 月 7 日（日）

開催場所：群馬県立県民健康科学大学

参加者：県内外の診療放射線技師、医学物理士、機器開発者（66 名）

内容：放射線治療計画装置の基礎と最新の知識を究める

2. 「国際協力型がん臨床指導者養成拠点」事業による e-learning 教材の作成

茨城県立医療大学における e-learning 教材の作成に協力

3. 実践型粒子線治療人材養成コースの設置

群馬大学との連携授業として後期から開始



第1回講演会

事業成果・効果

群馬県内のみならず広域で放射線治療に携わる診療放射線技師、医学物理士および開発者が、講演会における知識の吸収とディスカッションを通して、普遍的な放射線治療技術に基づいた最新の技術を知る機会を提供しました。本年度のセミナーでは、臨床業務に就いている診療放射線技師および医学物理士向けに、最新の放射線治療に関わるトピックスから、臨床応用、品質管理に関するテーマまで幅広い知識の共有ができました。参加者が各臨床現場において応用でき、問題発見、解決能力の向上に資する内容でした。放射線治療技術の向上は、群馬県で治療を受ける患者の利益につながる活動となります。

事業の課題及び改善の方向性

放射線治療に携わる医療従事者の育成については、県がん対策推進条例においても明記されており、専門的な医療従事者の質的向上を図る必要があります。今後も、「国際協力型がん臨床指導者養成拠点」事業への参画や、本学独自のセミナーの開催等を通じ、放射線技術系の基礎教育や継続教育に取り組んでいきます。

放射線教育・研修事業（学校における放射線教育支援事業）

担当者 診療放射線学部 ◎河原田教授、小倉（明）教授、
小倉（敏）教授、佐々木教授、大野准教授、長島准教授、
五十嵐准教授、林講師、谷口助手

事業目的・内容

放射線やその影響を正しく理解していただくために、学校（教諭・生徒・保護者）・事業所（病院・企業）・一般住民等を対象とした講義・講演を実施し、放射線教育を支援します。

実施結果

地域における放射線教育支援事業

実施日：①平成 28 年 2 月 24 日（水） ②平成 28 年 3 月 2 日（水）
時 間：18 時 00 分～19 時 30 分
会 場：公益財団法人群馬慈恵会松井田病院
参加者：職員 60 名
実施者：河原田泰尋
医療安全研修会「放射線の影響について」講義（60分程度）2回を実施しました。

事業成果・効果

放射線やその影響を、病院事業所職員に正しく理解していただきました。

事業の課題及び改善の方向性

実施責任教官が退職のため、継続的な事業が進められるよう検討を行います。

1 - 2. 事業報告

放射線教育・研修事業 (診療放射線技師継続教育等事業)

担当者 診療放射線学部 ◎小倉(明)教授、河原田教授、

小倉(敏)教授、佐々木教授、大野准教授、長島准教授、五十嵐准教授、
林講師、谷口助手

事業目的・内容

県内外の診療放射線技師の撮像技術向上事業として、「MRI専門技術者」資格の取得を視野に入れた講習会等を開催するほか、MRIを用いた共同研究と研修会を実施します。これらにより、診療放射線技師が最新の知識・技術を習得できるようにし、がん等の疾病の早期発見の機会の増加を図ります。

実施結果

1. 本学MRI装置を用いたMRI講習会の開催

実施日：平成27年9月19・20日

開催場所：MRI室および多目的ホール

参加者数：診療放射線技師47名

講習内容：MRI専門技術者取得に関する講義および演習



MRI講習会

2. 群馬MRI研究会への支援

実施日：平成27年5月20日

：平成27年6月17日

：平成27年7月15日

：平成27年9月16日

：平成27年10月21日

：平成27年11月18日

：平成28年2月17日

：平成28年3月11日

開催場所：本学多目的ホール

支援内容：開催場所の提供と講師の派遣

3. CT・MRIに関する他施設との共同研究の実施

①施設名：城西クリニック，群馬大学

研究内容：Off-resonance pulse 付加 3D-gradient echo 法による神経メラニンイメージ

研究報告：第43回日本放射線技術学会秋季学術大会で口述発表

②施設名：前橋赤十字病院，群馬大学，城西クリニック

研究内容：最適化された White matter attenuated IR (WAIIR) 画像における信号抑制効果の年齢間での比較

研究報告：日本放射線技術学会第62回関東支部研究発表大会で口述発表

③施設名：前橋赤十字病院，群馬大学，城西クリニック

研究内容：Double inversion recovery 法による白質および灰白質の容積計測法の検討

研究報告：日本放射線技術学会第62回関東支部研究発表大会で口述発表

④施設名：伊勢崎市民病院，群馬大学

研究内容：撮影条件の違いによるスペクトラルHU曲線への影響について

研究報告：日本放射線技術学会第62回関東支部研究発表大会で口述発表

事業成果・効果

「MR I 専門技術者」資格を取得するには、受験資格として一定以上の研究業績と、自施設のMR I装置を用いた性能評価試験の実施報告、ならびに認定試験の合格の必要があります。本講習会にて、研究の方法論、性能評価方法の実施、試験対策講義が行えたことは、資格取得に向けて有効であるばかりでなく、臨床MR I検査に関する基礎的、医学的知識の習得になり、県民の健康に還元されるものと思われれます。また、県内外との診療放射線技師の交流・情報交換の機会となり、医療安全等に関する情報など、さらなる医療サービスへの向上に繋がるものと考えます。

事業の課題及び改善の方向性

がん等の疾病の早期発見の機会の増加には、画像診断の質の向上が重要で、診療放射線技師の知識や技術の向上を図る必要があります。今後も、MR I実機を用いて、「MR I 専門技術者」資格の取得を視野に入れた講習会を開催し、県内外の診療放射線技師の継続教育を取り組むとともに、教育・研究機関としてMR I導入をした優位な環境を生かし、共同研究等も進めます。

1 - 2. 事業報告

放射線教育・研修事業（群馬県診療放射線技師会講習支援事業）

担当者 診療放射線学部 ◎五十嵐准教授、河原田教授、小倉（敏）教授、小倉（明）教授、
佐々木教授、大野准教授、長島准教授、
林講師、谷口助手

事業目的・内容

診療放射線技師の業務拡大に伴い、既卒の資格者には新たに拡大業務に対する講習が義務付けられました。この講習に専門知識を持った本学教員を講師として派遣することにより、地域の診療放射線技師の業務拡大移行を円滑に進めることが可能となるとともに、技術レベルの向上が期待できます。

実施結果

1. 業務拡大に伴う統一講習会

①講習会名：業務拡大に伴う統一講習会（北関東地域）

開催日：平成 27 年 11 月 7 日（土）～ 11 月 8 日（日）

開催場所：新潟医療人材育成センター

講師名：山崎芳裕先生（新潟大学）、小熊義則先生（木戸病院）、上原真澄教授（本学）、五十嵐博准教授（本学）

参加人数：60 名

②講習会名：業務拡大に伴う統一講習会（北関東地域）

開催日：平成 27 年 12 月 19 日（土）～ 12 月 20 日（日）

開催場所：本学多目的ホールほか

講師名：武田久先生（伊勢崎市民病院）、上原真澄教授（本学）、星野修平准教授（本学）、五十嵐博准教授（本学）

参加人数：31 名

2. 平成 27 年度 群馬県がん検診エックス線撮影従事者講習会

①平成 27 年 10 月 13 日（火） 19：00～ 21：00

演題名：「乳がん検診の現状と、マンモグラフィの最新情報」

講師名：NPO 法人 日本乳がん検診精度管理中央機構
教育研修委員会マンモグラフィ部門 技術委員 新井敏子 先生

演題名：「乳癌の診断」

講師名：渋川総合病院 内分泌外科 院長 横江隆夫 先生

参加人数：50 名

②平成 27 年 11 月 10 日（火） 19：00～ 21：00

演題名：「肺がんCT 検診の現状」

講師名：公益財団法人 群馬県健康づくり財団 健診部 放射線課 栗原奈津美 先生

演題名：「胸部X P の読影入門・ABC」

講師名：医療法人社団 高仁会 城西クリニック 院長 松本満臣 先生

参加人数：85 名

③平成 27 年 12 月 8 日（火） 19：00～ 21：00

演題名：『胃がん検診発見症例の解説：放射線技師の立場から Ver. 3』～基礎講義と読影実習～

講師名：一般社団法人 群馬県診療放射線技師会 萩原常夫 先生

参加人数：39 名

会場：本学多目的ホール（3 回とも）

本学からの支援（会場運営・受付等）：星野修平准教授、五十嵐博准教授、青木里佳嘱託助手

3. 群馬県診療放射線技師会女性部勉強会

開催日：平成 28 年 2 月 9 日（火）19:00～21:00

演題名：「頭部ルーチン MRI 検査に加えたい撮影法：診断に近づく次の一手」

講師名：館林厚生病院 小林茂 先生

演題名：「女性の MRI（乳腺を中心に）」

講師名：群馬大学医学部附属病院 岡内研三 先生

会 場：本学多目的ホール

本学からの支援（会場運営・受付等）：五十嵐博准教授

参加人数：41 名

4. 群馬県診療放射線技師会管理士部講習会

開催日：平成 28 年 3 月 6 日（日）13:00～17:30

演題名：「環境放射線よもやま話」

講師名：本学 杉野雅人准教授

演題名：「測定器動作確認の方法」

講師名：西吾妻福祉病院 大井雅治 先生

演題名：「放射線リスクコミュニケーション」

講師名：長崎大学 堀口逸子 先生

会 場：本学多目的ホール

本学からの支援（会場運営）：五十嵐博准教授

参加人数：41 名

事業成果・効果

診療放射線技師の業務拡大に伴い、新たに開始された講習について県内のみならず新潟県まで講師を派遣し、群馬県内外の技術レベルの向上に寄与することができました。また、がん検診エックス線撮影従事者講習会等の開催にも協力することで、県内のがん検診に従事する診療放射線技師のさらなる知識・技術の向上についても活動することができました。

事業の課題及び改善の方向性

業務拡大に伴う統一講習会については、平成 27 年度から新設された講習会でした。運営する群馬県診療放射線技師会のスタッフと実習指導をする本学スタッフがより密な連絡・調整をすることにより、現在以上にスムーズな開催ができると考えます。講習会場として本学を活用することによって、講義と実習の実施等も円滑に進められると考えます。

1 - 2. 事業報告

放射線教育・研修事業（診療放射線技師研究支援事業）

担当者 診療放射線学部 ◎小倉（敏）教授、河原田教授、小倉（明）教授、
佐々木教授、大野准教授、長島准教授、五十嵐准教授、
林講師、谷口助手

事業目的・内容

県内診療放射線技師の研究支援事業として、国内はもとより国際学会発表を視野に入れた研究発表の講習会等を実施します。これらにより、診療放射線技師が発展的な研究を行えるようにし、世界を視野に入れた学会発表ができるようになることが期待できます。

【具体的な取組み】

- ①本学で行っている研究の紹介
- ②国際学会の申請の方法
- ③スライド作成法の紹介

実施結果

1. 群馬県産業経済部次世代産業課主催のヘルスケア産業展が開催され、国際学会で発表している研究の紹介を行いました。

《研究タイトル》

「コンピュータドトモグラフィ (CT) を用いた新しい大腸検査法の開発」

- ①日 時 平成 27 年 10 月 28 日 (水) 10:00 ~ 16:30
9:45 ~ 10:00 (開会式)
10:00 ~ 16:30 (展示説明会)

- ②会 場 ビエント高崎 ビッグキューブ (高崎市問屋町 2-7)

2. 5 回にわたり健科大 CT・MRI 研究会を本学で開催しました。

- ①日 時 平成 27 年 6 月、9 月、10 月、12 月、平成 28 年 3 月
- ②会 場 群馬県立県民健康科学大学 第 11 演習
- ③内 容 CT や MRI を用いた県内技師の研究支援
- ④参加人数 総数 100 人

事業成果・効果

本事業は、群馬県民をはじめ、様々な地域に生活する人々の生涯にわたる健康水準の維持、向上に貢献できる保健医療専門職としての看護師、保健師、診療放射線技師の育成を目指していることをお知らせすることができました。また、国際学会で発表している最新の研究内容を話し、新しい検査法を地域の方々が受けただけであることを紹介しました。

事業の課題及び改善の方向性

一般の方々を対象に本学で行っている国際的水準の研究をお知らせすることができましたが、県内の診療放射線技師の研究支援事業として、国際学会発表を視野に入れた研究発表の講習会等を本格的に実施することはできませんでした。今後、健科大 CT・MRI 研究会にて県内の診療放射線技師の研究支援として、世界を視野に入れた学会発表ができるよう、講師を迎えて講習会を開く予定です。

放射線測定協力事業

担当者 診療放射線学部 ©倉石准教授、杉野准教授

事業目的・内容

放射線測定に関する助言・指導、測定値の解釈・評価、対策の立案・実施に関する助言等を通じて、県民に安全安心の提供を図ります。このため、以下の事業を行います。

1. 放射線測定に関する助言・指導の依頼に対応
 2. 測定器の簡易校正の依頼に対応
 3. 測定値の解釈・評価の依頼に対応
 4. 放射線・放射能に関する講習会への講師の派遣
 5. 除染対策、低レベル汚染土壌等の処理に関する助言
- < 2を除き、行政組織、民間団体の別を問わない。2は民間のみ対応 >

実施結果

1. 除染除去物の管理に関する調査
県内の汚染状況重点調査地域に指定された市町村における除染の進捗、除去物の管理状況について調査しました。
2. 測定器の簡易校正
市民団体(安中市)の依頼により測定器3台の簡易校正を行い、併せて測定方法について指導しました。後日、測定結果について解釈・評価への助言を行いました。
3. 県内学校における空間線量測定
測定対象とする学校の選定方針について検討を進めました。

事業成果・効果

放射能汚染された生活環境について、重点調査地域に指定された市町村に限らず、県内各地で除染が行われました。この除染により発生した除染土壌等の管理状況について、重点調査地域の行政担当者あてに調査票を郵送し、検討しました。この結果、どの市町村も環境省が定めた方法に従って安全を確保していることが確認されました。

放射線量率や食品等の放射能濃度については、行政による継続的な測定に加え、県民の個人・団体による測定が続けられています。原発事故から5年が経過し、群馬県内ではかなり低水準の線量率となっています。測定器の特性として、低レベルの放射線量率では補正のための定数が大きく変動するため、校正とともに測定方法や測定値の解釈・評価には、注意が必要です。このことについて、十分に理解していただけるよう解説することにより、正しい測定について理解していただきました。

県内の学校について、全校調査は時間的にも困難なため、地域別に数校を選定することとし、地域の方とも相談しながら選定を進めたことにより、情報交換ができ、本事業の意義への理解を深めていただきました。

事業の課題及び改善の方向性

事業の目的・内容に示しました1～4については、地域の方たちからの依頼にお応えする形での活動を今後も続けていきます。東京電力福島第一原子力発電所の事故から5年の時間が経過し、それぞれの地域の空間線量率や食品の放射能濃度を心配されている方は少なくなっていると考えられますが、いつでも県民の放射能・放射線に関する不安や心配の解消・軽減のための活動を続けてまいります。

5については「管理している自治体からの回答だけではなく、第三者による測定結果を知りたい」との要

1 - 2. 事業報告

望により実施することとしました。調査項目すべての集約には時間がかかりますが、平行して重点調査地域以外の市町村についても除染について調査したいと考えています。また、市町村の協力が得られれば、学校校庭の空間線量率調査時に、除染除去物等の保管現場について空間線量率の測定も行い、県内各地の方たちに安心を提供することを計画しています。

教育普及事業

担当者 看護学部 石川教授、吉富教授、森川准教授、鶴生川准教授、佐々木助教、生方助手
 診療放射線学部 ◎青木教授、星野准教授、米持助教

事業目的・内容

県民を対象とした公開講座や講演会などの事業を行い、地域の方々に本学の教育と研究の成果を還元します。

実施結果

1. 公開講座の開催（本学主催の県民を対象とした講座）

①第1回：平成27年8月29日（土）

「身近で受けられる高精度放射線治療—原理から重粒子線治療まで—」

講師：診療放射線学部 佐々木浩二 教授

参加人数：51名

②第2回：平成27年9月26日（土）

「いつまでも自分で歩こう！～体も心も健康に～」

講師：済生会前橋病院リハビリテーションセンター 白倉賢二 代表部長

看護学部 狩野太郎 教授、診療放射線学部 渡部晴之 講師

参加人数：81名

③第3回：平成27年12月18日（金）

「クリスマスには、英語の物語を」～不思議の国のアリス～

講師：看護学部 鶴生川恵美子 准教授

参加人数：31名



第1回公開講座

Pick UP

第1回公開講座

「身近で受けられる高精度放射線治療 -原理から重粒子線治療まで-」

診療放射線学部 教授 佐々木浩二

放射線治療における技術および機器は大きく進歩しており、強度変調放射線治療（Intensity modulated radiation therapy；IMRT）、画像誘導放射線治療（Image-guided radiation therapy；IGRT）等の高精度な放射線治療技術が急速に普及し、種々の疾患への適用拡大、治療成績の向上、有害事象の低減が実現しています。そして、陽子線治療、重粒子線治療に代表される粒子線治療では日本が世界をリードし注目されています。この講演では、近年の最新放射線治療機器と技術の進歩を知っていただき、多くの疾患に対して放射線治療が有効に利用されている現状をご紹介します。

講演内容

<p>1. がん治療における放射線治療とはどのようなものか？ がんに対する治療の三つの柱である手術、放射線治療、化学療法についてその利点と欠点を整理して解説しました。</p>	<p>3. 放射線治療における照射法の違い 身体の外から放射線を照射する外部放射線治療、中から照射する密封小線源治療等の放射線治療の方法論を概観し、さらに外部放射線治療における近年の高精度な技術であるIMRT、IGRT、陽子線・重粒子線治療の詳細について解説しました。</p>
<p>2. 放射線で癌細胞が死ぬのはなぜか？ 生体に照射された放射線のエネルギーはどのようにして生物に効果を発現するのか？物理学的過程・化学的過程を経て生物学的な効果発現にいたる放射線の影響について、放射線の種類やエネルギーの違いを考えながらシミュレーションデータを用いて説明しました。</p>	<p>4. 外部放射線治療の手順の紹介 診療放射線技師が行っている放射線治療の臨床における治療手順について、医師や看護師との関わりを含めて解説しました。</p>

この講座を通して、放射線治療の驚異的な発展とがん治療の進歩について理解いただけたと思います。がん治療に関する知識はきっと役に立つと思います。

1 - 2. 事業報告

2. 出前なんでも講座（群馬県事業）

実施件数：107 件

派遣教職員：119 名

参加者：6093 名（申請者申告）

※ベスト 10 に 3 講座ランクイン

Pick
UP

出前講座：テーマ「転倒予防に向けた身体づくり」

看護学部 講師 樋口友紀／講師 福島昌子

●概要：本講座は、地域で生活する高齢者の皆さんが、いつまでも自分の足で活動的な生活が出来るように、「転倒予防に向けた身体づくり」をテーマに実施している。

「フットケアを学ぼう」では、転倒予防に向けたフットケアの意義や足部や足爪のケア（足の観察、爪切りや保湿等のお手入れ）、靴選びなどの具体的なフットケアについて分かり易く講義している。講義後は、参加者全員で足指体操を実施し、内容の確認や方法を説明している。

「転倒予防体操を学ぼう」では、加齢に伴い転倒するリスクがどうして増加するのかといった身体的なメカニズムから転倒予防に向けた日常生活での注意点や環境調整の方法等について分かり易く講義している。講義後は、生活に取り入れやすい転倒予防体操を実施し、体操内容の確認や方法を説明している。

体操終了後には、参加者からの質問や疑問点等にも回答する時間を設け、参加者の皆さんとのコミュニケーションを大切にしている。

参加された皆さんは、講義中、熱心に耳を傾け、体操では大きな声でカウントしながら楽しく体験されていた。

●実施状況：県内全域にて 9 件実施した。

参加者は 427 名であり、年齢は 50 歳～ 90 歳代であった。

●参加者の感想：

- ・転倒予防体操を毎日継続したい。
- ・家で料理をしながら、体操を覚え、日常の一部として取り入れたい。
- ・フットケアは知らないことが多かったので、大変参考になった。
- ・家で簡単にできる体操なので、妻と一緒にやりたい。
- ・足、爪のケアは転倒予防にとっても良い勉強になった。



実績一覧

※テーマ五十音順

No.	テーマ	担当講師	開催日	主催者	人数
1	赤ちゃんとのふれあい、ベビータッチングケア	教授 行田智子	11月17日	NPO regional childcare support こはく	20
2			6月29日	安中市役所	30
3	あなたの腎臓、大丈夫？	講師	9月4日	三洋電機洋友会群馬地区	30
4	ー慢性腎臓病から腎臓を守るコツー	高橋さつき	3月16日	四ツ家愛宕いきいきサロン	20
5			3月25日	片品村健康管理センター	20
6	安楽死（よい死）	准教授 森川功	2月24日	特別養護老人ホームこまくさ	25
7			9月16日	公益財団法人群馬慈恵会松井田病院	60
8	医療におけるヒューマンエラーと防止策	准教授 五十嵐博	9月24日	公益財団法人群馬慈恵会松井田病院	60
9			11月20日	群馬産業技術センター	20
10			4月26日	群馬日野自動車株式会社	191
11			5月12日	群馬県教育委員会学校人事課	160
12	うっかりミスはなぜ起きる	准教授 五十嵐博	7月3日	藤岡労働基準協会	70
13			7月17日	燦々会	50
14			7月23日	前橋公立小中特別支援学校事務職員会	74

1 - 2. 事業報告

No.	テーマ	担当講師	開催日	主催者	人数
15	うっかりミスはなぜ起きる	准教授 五十嵐博	7月25日	群馬県看護協会前橋地区支部	110
16			8月18日	伊勢崎市社会福祉協議会境支所	30
17			9月7日	NPO 法人すずらん	30
18			9月21日	太田市石原町一区自治会	70
19			10月14日	上町おしゃべりサロン	27
20			10月22日	桐生市地域包括センター	20
21			11月17日	群馬県東部地域水道事務所	15
22			11月18日	前橋市立荒砥中学校	130
23			11月19日	群馬県桐生森林事務所	70
24			11月27日	神流町地域包括支援センター	30
25			12月10日	群馬県衛生環境研究所	20
26			12月15日	渋川北群馬教育研究会	34
27			1月21日	パイオニアスタッフサービス	15
28			2月8日	桐生市産業政策課	100
29	2月9日	明寿大学同窓会	350		
30	3月16日	特別養護老人ホーム 思いやり	25		
31	家庭で活かす看護技術 「血圧の値が教えてくれること」	助教 佐藤正樹	11月11日	板倉町健康介護課	30
32	家庭で活かす看護技術 「口腔内トラブルを防ぎ、清潔を保つ技術」	講師 高橋さつき	10月9日	高崎市中央公民館	20
33			10月22日	社会福祉法人恵林	30
34	家庭で活かす看護技術 「マッサージによるリラックスする技術」	准教授 保坂さえ子	9月9日	太田市九合行政センター	200
35			11月5日	高崎市総合福祉センターシルバーセンター	60
36			11月12日	桐生市地域包括支援センター思いやり	20
37			12月7日	渋川市赤城公民館	29
38			3月30日	板倉町健康介護課	30
39	家庭で活かす看護技術 「床ずれを予防するための工夫」	教授 山下暢子	7月24日	特別養護老人ホーム八瀬川の里	25
40			12月8日	特別養護老人ホーム八瀬川の里	15
41	身体の発育と病気	教授 横山京子	2月29日	伊勢崎市ファミリーサポートセンター	10
42	高齢者に多い入浴の事故	教授 肥後すみ子	11月18日	太田市鳥之郷行政センター	90
43			11月27日	神流町地域包括支援センター	30
44			12月7日	前橋市中央公民館	400
45			1月21日	みどり市社会福祉協議会大間々支所	30
46			2月19日	幸塚町自治会	40
47	こころの健康づくり	教授 田村文子	6月19日	ハートクラブ	20
48			9月1日	社会福祉法人仁和会	40
49	子どもの「からだ」や「病気」の理解のしかた	教授 横山京子	6月19日	大泉町健康づくり課	22
50	歯周病・・・あなたは大丈夫？ ー全身疾患との関係と、口腔ケアのポイントー	講師 高橋さつき	12月8日	碓氷教育会	24
51			9月15日	みどり市大間々公民館	100
52			10月6日	社会福祉法人はーとわーく	20
53	心肺蘇生について知ろう～いざという時に～	講師 小林万里子	5月1日	社会福祉法人山紫会	25
54		講師 橋本晴美	7月29日	障害者支援施設大地	15
55		講師 小林万里子	2月8日	ピー・アンド・ジー株式会社高崎工場	13
56		講師 小林万里子	2月15日		13

1 - 2. 事業報告

No.	テーマ	担当講師	開催日	主催者	人数
57	心肺蘇生について知ろう～いざという時に～	講師 小林万里子	2月18日	ピー・アンド・ジー株式会社高崎工場	13
58		講師 橋本晴美	2月22日		13
59	睡眠環境を調える	講師 田淵祥恵	6月18日	信越化学労働組合磯部支部	100
60			8月21日	板倉町健康介護課	30
61			8月27日	みどり市笠懸公民館	150
62			10月3日	群馬県立ふれあいスポーツプラザ	30
63			11月10日	吾妻郡小中学校事務研究会	24
64			11月25日	昭和村立昭和中学校	250
65			12月10日	高崎市立吉井西小学校	50
66			1月19日	大泉町教育委員会	80
67			1月20日		70
68			3月9日	障害者支援施設大地	15
69			3月18日	社会福祉法人前光会	30
70	スマートフォンによる保健医療における情報活用	准教授 星野修平	12月4日	群馬県高等学校保健体育研究会	100
71	生活習慣病の予防と対応策	准教授 廣瀬規代美	7月25日	株式会社相川管理	100
72		教授 中西陽子	9月29日	群馬県下水道総合事務所	25
73		教授 中西陽子	11月20日	全日本自治体退職者会群馬県本部	60
74		准教授 廣瀬規代美	11月20日	群馬県立ふれあいスポーツプラザ	20
75		准教授 廣瀬規代美	3月9日	群馬県農業団体健康保険組合	70
76	タッピングタッチ	講師 中野あずさ	6月8日	信越半導体(株) 磯部工場	32
77	「いつでもどこでもだれでもできるシンプルなケア」		12月26日	館林市社会福祉協議会	25
78			2月6日	子育てボランティアグループ「スマイル」	15
79	転倒予防に向けた身体づくり	講師 樋口友紀 福島昌子	6月12日	桐生市高齢者大学	200
80	転倒予防にむけた身体づくり1		8月3日	安中市健康づくり課	25
81	「フットケアを学ぼう」		8月27日	前橋市芳賀公民館	40
82	転倒予防にむけた身体づくり		9月14日	高崎市箕郷公民館	50
83	1 「フットケアを学ぼう」 2 「転倒予防体操を学ぼう」		9月24日	高崎市総合福祉センターシルバーセンター	60
84			10月9日	みどり市立大間々図書館	100
85	転倒予防にむけた身体づくり2		3月8日	安中市健康づくり課	20
86	「転倒予防体操を学ぼう」		3月8日	箕輪城長寿センター	30
87			3月11日	川場村地域包括支援センター	26
88	夏休み・自由研究の進め方	准教授 倉石政彦	7月13日	前橋市立芳賀小学校	90
89			7月16日	安中市立九十九小学校	33
90			7月21日	渋川市赤城公民館	20
91	乳がんと向き合う	教授 中西陽子 准教授 飯田苗恵 根岸徹	3月22日	片品村健康管理センター	20
92	乳幼児期・学童期の子どもの「からだ」や「病 気」の理解のしかた	教授 横山京子	9月11日	殖蓮地区育成団体連絡協議会	70
93			10月1日	特定非営利活動法人おたがいさま	15
94			11月26日	安中市民生児童委員協議会	50
95			1月24日	群馬県学童保育連絡協議会	50

No.	テーマ	担当講師	開催日	主催者	人数
96	妊娠期から生後3ヵ月頃までの子育て	教授 行田智子 助手 生方尚絵	9月28日	特定非営利活動法人おたがいさま	15
97	はたらく人のストレス～からだの声を聴く～	講師 垣上正裕	8月6日	伊勢崎商工会	30
98			9月11日	藤岡労働基準協会	50
99			11月4日	一般社団法人群馬県卸売市場連合会	100
100			12月2日	社会保険診療報酬支払基金群馬支部	50
101			2月22日	独立行政法人水資源機構群馬用水管理所	15
102	人の自律性とインフォームド・コンセント	准教授 森川功	9月4日	桐生市高齢者大学	200
103			2月10日	群馬県特別支援学校部主事研修会	30
104			3月17日	新世紀塾「ときめき」	15
105	放射線の影響について	教授 河原田泰尋	2月24日	公益財団法人群馬慈恵会松井田病院	60
106			3月2日	公益財団法人群馬慈恵会松井田病院	60
107	放射線被ばくの無いMRI検査とは	講師 林則夫	1月10日	高花台一丁目自治会	80

3. 公開授業（県民を対象とした本学学部授業の公開）

- ①「群馬県民の文化と生活」
受講者数 11名、延べ人数 129名
- ②「健康と環境」概論
受講者数 3名、延べ人数 45名
- ③「人間の発達と健康」概論 <通年科目>
受講者数 4名、延べ人数 29名

事業成果・効果

県立大学として求められる水準にふさわしい公開講座が計画され、地域住民に向けて周知を図った。公開講座終了後に収集した参加者へのアンケート調査結果によると、参加者は高い満足度を得ることができている。また、出前なんでも講座の講師派遣についても、要請に沿って教員に仲介する組織的な支援がなされました。さらに、平成26年度からは新規に学部の授業を県民に公開し、今年度18名の方が参加くださいました。これらの事業を通し、県民に本学の教育活動や教員が実施する研究を理解していただき、これによって県立大学としての存在意義を再確認していただくと共に、公開講座の内容に関する知識の習得を通して、豊かな生活を送っていただくことを切に望んでいます。

事業の課題及び改善の方向性

大学機能として地域貢献活動を盛り込んだ改正学校教育法の趣旨から鑑み、医療専門職だけでなく、地域住民をはじめ多くの県民に、大学の知的財産を還元することが要請されています。本学では、これまでどおり、公開講座や講演会等を行い、地域貢献活動を積極的に実施するとともに、この事業を県民のみならず、今以上に活用いただけるよう、要望のあった様々なテーマで公開講座を企画するとともに、より広範な広報活動に力を入れる必要があります。

地域連携推進事業

担当者 看護学部 ◎肥後教授、行田教授、保坂准教授、小林講師、土井講師、中野講師、益子講師、塩ノ谷講師、坪井講師、田淵講師、樋口講師、服部講師、大澤康助手、竹淵助手、高橋(美)助教
診療放射線学部 堀准教授、西村助手

事業目的・内容

本センターの活動を広く県民に知っていただくために、3つの事業を実施します。一つ目は、地域連携センター Newsletter を発行します。二つ目は、前年度に実施した地域貢献活動の報告書の作成・製本化です。報告書は、本学の教員や学生がどのような地域貢献活動を行っているのかわかりやすい内容にまとめます。三つ目は、学生ボランティア活動の支援です。学生ボランティア活動がどのような現状にあるのか実態を把握し、学生ボランティアの活性化に向けた資料にします。

実施結果

1. 地域連携センター Newsletter の発行
 - ・ Vol. 3 / No. 1 6月発行 特集：新学長による本センターの抱負
 - ・ Vol. 3 / No. 2 10月発行 特集：地域連携センターの事業紹介
 - ・ Vol. 3 / No. 3 1月発行 特集：開学10周年、地域貢献活動の変遷
 - ・ Vol. 3 / No. 4 3月発行 特集：大学院後期博士課程の開設に向けた学長の挨拶
 - ・ Newsletter の記事は大学のトピック、地域活動報告、県民の皆さんに役立つ健康アドバイス、学内行事のお知らせなどを取り上げました。
2. 地域貢献活動報告書の作成
 - ・ 平成26年度の報告書を発行しました。
 - ・ 見やすく、分かりやすく、シンプルな報告書を作成するために、平成28年度に向けてフォーマットを検討中です。
3. 学生ボランティア活動の現状把握
 - ・ 現在、ボランティア担当教員と事務担当者の現状報告から、ボランティア募集の窓口は事務局や教員個々となっていること、ボランティアサークル活動など、本学の活動状況の実態は不明瞭な点が多いという現状が見えてきました。そこで、活動状況の実態把握を行い、問題点と課題を整理し、センター推進事業として取り組む内容を明らかにしました。
 - ・ 今後は、意識啓発、受け入れ体制の充実、積極的な活動の支援の3点を検討することを確認しました。
 - ・ 学生によるボランティア活動:のべ15日152名(看護学部学生 140名、診療放射線学部学生 12名)
※事務局把握分
4. 共愛学園前橋国際大学が平成27年度「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」に採択され、本学が協力校として参加することになりました。



ボランティア(リレー・フォー・ライフ・ジャパン2015ぐんま)

事業成果・効果

地域連携センター Newsletter 及び地域貢献活動報告書を発行することで、本センターの活動を広く県民に理解していただけたと思います。

ボランティア活動の実態が明らかになり、今後の課題及びボランティア活動の方向性が見えてきました。遅々ではありますが、活動を充実させることで学生ボランティアを必要としている方々の支援につながれると思います。また、ボランティアを通して学生の達成感・成長を期待します。

事業の課題及び改善の方向性

地域連携センター Newsletter の記事の充実、読みやすく・わかりやすい地域貢献活動報告書の工夫を重ねていきます。学生ボランティア活動は、課題の3点を具体化し、着実に実行していきます。

本年度は本センターの組織改編があり、本学の全教員が何らかの役割を担い実行するという大改革がありました。新体制になり、本事業の担当者の多くが新しい顔ぶれであると共に、初めての役割体験に戸惑いながら行動してきました。この体験により、新しい気づきや出会いがありました。同じ学内にいても専門分野が異なると教員間の接点がないので、このような活動を通して少し視野が広がりました。今後ともより興味・関心をもっていただけるような活動に努力いたします。

NEW

健康福祉政策事業（県医務課・保健予防課との連携）

担当者 看護学部 ◎ 巴山教授、大澤准教授、垣上講師、橋爪講師
診療放射線学部 下瀬川教授、根岸准教授

事業目的・内容

1. 群馬県が、看護師養成所の専任教員の確保と定着及び資質向上に向けて実施してきた研修をより系統的で、効果的な研修にするため、教員を対象とした継続教育プログラムの開発・評価を行います。
2. 胸部 X 線撮影時の医療被ばく線量測定を行い、職員が最適な条件で業務が行えるよう調査・報告を行います。

実施結果

1. 平成 27 年 12 月 15 日（火）：群馬県看護教員継続教育プログラム開発プロジェクト会議（仮）（第 1 回）
①事業の目的、②プログラム立案の過程、③全体計画、④調査用紙の検討を行った。
2. 平成 28 年 2 月 8 日（月）：医療被ばく線量測定に関する説明
① 保健所における X 線装置の精度管理方法の説明：測定器を持ち回りで使用し、基準条件での線量を調査する。
② 診断参考レベルの説明：2015 年 6 月に提案された日本の医療被ばく標準値の概念と撮影部位ごとの線量説明を行った。
③ 診断参考レベルと各施設の撮影線量の比較方法：本学で作成した診断参考レベル簡易計算シートを用いて入射表面線量を測定する手法を提案した。
④ 測定方法解説：X 線装置を用いて測定方法の解説を行った。

事業成果・効果

1. 教員を対象とした継続教育プログラムが開発され、系統的な研修が実施されれば県内の看護教育のレベルの向上が期待できます。
2. 不必要な医療被曝を防止することが期待されます。

事業の課題及び改善の方向性

1. 事業の予算は、本学共同研究費を申請することにより確保します。
2. 期間を決めて測定器を貸し出し、測定結果を比較検討し、調査報告書を作成することを通して、結果を周知していきます。



ご挨拶

学長 高田 邦昭



平成27年4月1日付けで群馬県立県民健康科学大学の学長を拝命しました。県立大学としての本学の価値を高め、県民にとって必要とされ、頼りがいのある大学を、教職員一同一丸となって作って行きたいと思っております。本学には看護学部と診療放射線学部の二つの学部があります。これらのルーツである群馬県立看護学院と群馬県立診療エックス線技師養成所の開設以来、約60年間にわたり地域が必要とする看護師、保健師、診療放射線技師を養成し、保健、医療水準の向上に貢献してきました。そして本学は、更なる充実を図るべく4年制大学へと改組してから10年が経過しました。

大学のミッションは教育基本法により、教育、研究、社会貢献と定められています。この三本柱の一つである大学の社会貢献機能を最大限発揮する、すなわち大学の知を地域の保健・医療・福祉向上のために還元するための仕組みとして、地域連携センターは平成24年に発足しました。センターでは、看護学教員養成事業により、地域の看護学教員のレベルアップに取り組んでいます。また、地域の看護師や診療放射線技師のために様々なセミナー、講習会、教育講座を開催するとともに、研究支援や共同研究も行っています。学校における放射線教育支援や地域の放射線測定に関する助言・指導にも取り組んでいます。県立病院とは、看護学、診療放射線学の両分野で、人材養成、課題解決、研究等への協力を通じて連携事業を展開しています。さらに県民向けの公開講座や出前講座による教育普及活動も行っています。

大学の後ろにそびえる赤城山のように、地域に広い裾野を広げ、地域に根ざしてそのニーズに的確に応える「地域に開かれた大学の窓」として、この地域連携センターを運営して行きたいと考えています。引き続き皆様方のご支援ご鞭撻をお願いいたします。

お知らせ

第1回公開講座

「身近で受けられる高精度放射線治療 ー原理から重粒子線治療までー」 参加者募集中!

放射線治療における技術および機器は大きく進歩しており、強度変調放射線治療、画像誘導放射線治療等の高精度治療が急速に普及し、種々の病気への適用拡大、治療成績の向上、有害事象の低減が実現しています。そして、陽子線治療、重粒子線治療に代表される粒子線治療では日本が世界をリードし注目されています。この講演では、近年の最新放射線治療機器と技術を知っていただき、多くの疾患に対して放射線治療が有効に利用されている現状をご紹介します。

【日 時】平成27年8月29日(土) 14時～

【講 師】診療放射線学部 教授 佐々木 浩二

【受講料】無料

【申込方法】本学ホームページからお申し込みください。また、はがき、FAX、電話でもお申し込みいただけます。

特集 看護職研究支援事業

本事業は、大学が所有する知的財産や研究成果を活用し、県内の看護職者の研究能力の向上に寄与することを目的として、群馬県内の病院、行政機関、健診機関、訪問看護ステーション、福祉施設、事業所等に所属する看護職者の皆さんの研究活動を支援する事業です。

今年度は既に、4月29日(水・祝)、5月10日(日)に、計3回の看護研究セミナーを実施しました。実践的な内容やグループワークを取り入れた内容は、各回とも大変ご好評いただきました。また、平成25年度・26年度に看護研究個別支援を受講された方に、成果報告会として、支援の経過や研究内容を発表していただきました。報告会では、和やかな雰囲気の中で、意見交換をすることができました。



看護職研究支援事業担当教員



看護研究セミナー グループワークの様子



看護研究個別支援成果報告会の様子

Voice 看護研究個別支援成果報告会発表者の声

東日本旅客鉄道株式会社高崎鉄道健診センター 木村 恵美子 さん



『研究はつらい??』

順番に研究を行っている職場で、ついに研究担当になってしまいました。さて、「困った」と思っていたところ、健科大の看護研究支援事業を知り、渡りに船と参加しました。就労後初めて行う研究のため、大澤先生、坪井先生、齋藤先生には、看護研究に必要な知識から丁寧に教えていただきました。また今回の研究成果を産業衛生学会で発表することになり、学会発表用の抄録や発表の原稿、スライド作成まで細かくご指導いただきました。今回、支援事業に参加して、研究の楽しさも学べてとても勉強になりました。貴重な時間をありがとうございました。

Kenkadai A to Z



R Department of Radiological Technology

■ GUNMACHAN : 本学オリジナルぐんまちゃん

昨年度、ゆるキャラグランプリで見事グランプリを獲得した、ぐんまちゃん。実は、本学のためにデザインされた「ぐんまちゃん」がいます。ご存知でしたか？看護学部の白衣は学年ごとに袖にカラーラインが入ります。そんなライン入りの白衣を着たぐんまちゃんと、診療放射線学部が着ている長白衣のぐんまちゃんです。



N Department of Nursing

発行：群馬県立県民健康科学大学地域連携センター 〒371-0052 群馬県前橋市上沖町323-1
TEL: 027-235-1211 FAX: 027-235-2501 URL: <http://www.gchs.ac.jp/>



ごあいさつ

地域に開かれた大学の窓として

地域連携センター長 横山京子

群馬県立県民健康科学大学は開学して10周年、地域連携センターは3周年を迎えました。これまでに寄せられました地域の皆様や関係者の皆様からのご支援とご協力に、心から感謝申し上げます。

本学は、群馬県民の健康の向上を中心におき、県民本位の保健医療専門職を養成するという形で地域貢献に努めております。平成24年度に設置された地域連携センターは、大学の“社会貢献”の機能を着実に果たすため、大学と地域を結ぶ窓口となり、様々な事業を通して本学が持つ知的財産や研究成果を、県民、保健医療専門職者、行政などに還元し、県民の保健・医療・福祉の上に寄与することを目指しています。

今年度は、上記のように節目の年にあたり、地域連携センターのこれまでの歩みを振り返るとともに、地域社会と大学の将来を見据えて規程を見直し、運営体制も強化しました。全教職員体制で活動を展開し、その活動の質を高め、事業の充実を図っていきたく思いますので、今後ともよろしくお願いいたします。



事業紹介

地域連携センターは、大きくわけて2種類の事業を展開しています。1つは、群馬県民の皆様を対象とする公開講座、出前講座、公開授業、ボランティア活動のコーディネートなどです。もう一つは、県内の保健医療施設に勤務する専門の方々を対象とする研究や継続教育の支援などです。

<p>教育普及事業</p> <p>県民向け 誰でも参加OK</p> <p>日常生活で役立つ知識を得られる公開講座や、本学の学生と一緒に授業を受けられる公開授業を開催しています。また、さまざまな施設や教育機関等からの要請により、教員を派遣する出前講座を実施しています。</p> 	<p>地域連携推進事業</p> <p>県民向け</p> <p>地域連携センターニュースレターや活動報告書を発行し、本センターの活動を広く県民に知ってもらえるよう取り組んでいます。また、地域及び病院等からの要望に応じ、ボランティア活動を実施しています。</p>
<p>看護職研究支援事業</p> <p>専門職者向け</p> <p>現場で働く看護師・保健師等を対象に、看護研究を実施する際に必要な研究の基礎的知識を習得するためのセミナーを開催します。セミナーの全講座を受講された方を対象に、研究テーマに沿って看護研究の一連の過程を教員が支援します。</p>	<p>看護学教員養成課程</p> <p>専門職者向け</p> <p>看護師養成教育機関の教員や臨床現場で教育的役割を担う教育担当者を対象に、看護基礎教育に携わる教育者としての役割を遂行するために必要な知識技術を教授します。</p>
<p>放射線測定協力事業</p> <p>地域(市町村)向け</p> <p>放射線測定に関する助言・指導、測定値の解釈・評価、対策の立案・実施に関する助言等を通じて、県民に安全安心の提供を図っています。</p>	<p>放射線教育・研修事業</p> <p>専門職者向け 教育機関向け</p> <p>学習指導要領の改訂に伴う学校教員等に対する放射線教育の支援や、診療放射線技師の撮影技術の向上、MRI専門技術者の資格取得を視野に入れた継続教育等を実施しています。</p> 
<p>県立病院連携事業</p> <p>組織レベル</p> <p>県病院局及び県立4病院と本学で、各病院が抱える課題、例えば人材育成等について、その解決に向けた具体的な連携事業を組織レベルで展開しています。</p>	<p>健康福祉政策事業</p> <p>組織レベル</p> <p>県内の保健医療施策に関して、行政機関と意見交換会を実施し、連携に向け取り組んでいます。</p>

活動報告

学校における放射線教育支援事業

平成23年に学習指導要領が改訂され、30年ぶりに放射線の性質と利用を教えることとなりました。しかし、放射線教育を無くした30年のブランクは非常に大きく、県内の物理・化学専門の先生を対象とした講演で、「放射線を今まで学んだことがない、何をどのように教えて良いのか分からない」という声が多く寄せられました。そこで、診療放射線学の知識を提供することにより、教育の場に協力できると考え、この事業に取り組んでいます。



企業や団体、県民の皆様の研修会などで“放射線の話を知りたい、聞きたい”というご要望がありましたらご連絡ください。
[TEL:027-235-1211(代)、mail: kawa@gchs.ac.jp]

Voice 第2回公開講座「いつまでも自分で歩こう！～体も心も健康に～」



9月26日、群馬県済生会前橋病院リハビリテーションセンターの白倉賢二先生、本学の狩野太郎先生、渡部晴之先生を講師に、歩くことの重要性と転倒予防の体操、画像検査の内容について講義が行われました。

◆◆ 参加者の声 ◆◆

- ・歩くことの重要性を再確認することができました。
- ・車での移動が多い毎日を送っていますが、これからは少しでも歩こうと思いました。

健科大ぐんまちゃんの健康アドバイス



出かけたい場所、会いたい人、出かけたいという気持ち…お持ちですか？
歩くことは、健康づくり、仲間づくり、地域づくりにつながります！

- 外に出て歩くことで、気分転換をしましょう。
- 無理なく、疲れない適度な運動で、ご自身にあった筋力をつけましょう。
- バランスの良い食事をとりましょう。

♪秋風に誘われて草木がダンスをしています。

桃木川沿いをお散歩されてはいかがですか？

お知らせ

大学院博士後期課程の開設(平成28年4月)が認可されました。準備が着々と進んでいます！

第3回公開講座「クリスマスには、英語の物語を」
～『不思議の国のアリス』を読む～ 参加者募集中！◆◇英語初心者大歓迎◆◇

【日時】平成27年12月18日(金) 13:30～15:30 【開催場所】県民健康科学大学
【講師】看護学部 准教授 鶴生川 恵美子 【受講料】 無料
【対象】県民の皆様(どなたでもご参加いただけます)
【申込方法】本学ホームページからお申し込みください。また、はがき、FAX、電話でもお申し込みいただけます。

桃の木祭(学園祭)を開催します！

【日時】平成27年11月7日(土)・8日(日) 【開催場所】県民健康科学大学
※詳細については、本学ホームページ等でお知らせいたします。

発行：群馬県立県民健康科学大学地域連携センター 〒371-0052 群馬県前橋市上沖町323-1
TEL:027-235-1211 FAX:027-235-2501 URL: <http://www.gchs.ac.jp/>



【開学10周年を迎えた地域貢献活動の変遷】

本学は開学10周年を迎え、地域貢献活動として、「出前なんでも講座」「公開講座」「公開授業」を実施しています。東日本大震災時には放射線被ばくや放射線物質の飛散に対する不安が高まり、本学教員が放射能線の測定に赴いたり、緊急公開講座を行ったりしました。県で実施しています「出前なんでも講座」の人気ベスト5(県政)に平成26年度は本学より3つの講座がランクインしました。県民の皆様の健康にお役に立てるよう、様々な事業を展開していきたいと思ひます。

出前なんでも講座

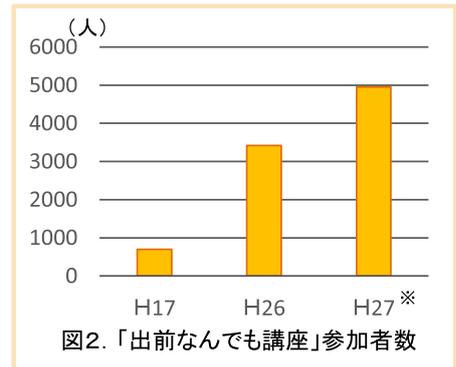
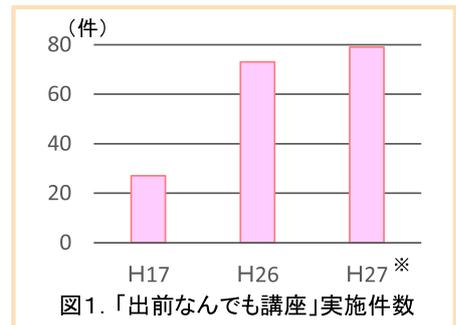
県の事業である「出前なんでも講座」が開始された平成14年から企画し、実施しています。大学が開学した平成17年度は、メニュー数が29でしたが、平成26年は39に増加しています。実施件数、参加者数の変遷は図1、図2のグラフのとおりです。

公開講座

大学開学時から年に3～7回実施しています。平成17年度は、高校生向けの開学記念公開講座も含めた参加者数は195名でした。地域連携センターが開設された平成24年度の参加者数は99名、平成26年度は159名でした。

公開授業

平成26年度に教育普及事業の1つとして開始しました。平成26年度の実績は、開講は3科目、参加者は99名でした。



※H27は10月末現在数

開学10周年記念行事報告

平成27年10月24日(土)に記念式典、記念講演会、記念パーティーが本学で行われました。記念式典には130名の方がご出席され、盛大に行われました。記念講演は前学長土井邦雄先生の「より良い大学にしたい」とノンフィクション作家の柳田邦男先生の「からだの健康、こころの健康～医療者と患者が共に歩む対話とは～」が行われ、県民の皆様も含め約250名に参加いただきました。記念パーティーでは関連機関の方約100名が集い、様々なお話がなされ、今後の大学の発展に向けて、情報交換の場ともなっていました。

この他に卒業生の皆様や実習施設の皆様からたくさんの寄稿をお寄せ頂き、10周年記念誌を発行することができました。



活動報告

新規 診療放射線技師会講習支援事業 診療放射線学部准教授 五十嵐博

今年度から群馬県診療放射線技師会講習支援事業が始まりました。平成27年11月7・8日に、新潟県で開催された「業務拡大に伴う統一講習会」に実習指導者として参加しましたので報告いたします。平成27年4月1日から診療放射線技師法が改正され、診療放射線技師は、①CT検査等での自動注入器による造影剤注入および注入後の抜針・止血、②下部消化管検査のためのカテーテル挿入、③画像誘導放射線治療時の腸管ガス吸引のためのカテーテル挿入等が実施できるようになりました。今後は群馬県内でも同講習会が開催されます。これからは技師のスキルアップのため、そして県民の皆様へ安全な医療の提供のために取り組んでいきたいと考えております。



出前なんでも講座 看護学部准教授 保坂さえ子

高崎市総合福祉センター・シルバーセンター主催の「マッサージによるリラックスする技術」の講座に講師として参加しました。高齢者生きがいづくり事業の一環として、毎年、社会大学院を開講されています。最高齢者は88歳、女性が多数参加していました。マッサージ実技は笑顔と笑いに包まれ終了しました。少しでも生きがいづくりのお役に立てるよう、これからも行っていききたいと思います。



【受講者の声】

- ・両親の看病、介護と続いた。マッサージをすると気持ちよさそうに目を細め眠りに入る日々を思い出した。素人マッサージで動作が速過ぎたりしたが、今日の事を生かしていきたい。
- ・マッサージをあまり考えたことがなかったが、痛みだけでなく、精神的にも効果がある事を知った。血行やリンパの流れを考えながら、リラックスも心がけたい。
- ・「触れられる」という温もりにとっても癒された。



健科大ぐんまちゃんの健康アドバイス

米国ブレスロー教授が提唱した7つの健康習慣は、寿命に影響することがわかっています。「わかっているけどなかなかできない」ものです。年の初めに、ご自分の生活を振り返ってみてはいかがでしょうか。

1. 喫煙をしない 2. 定期的な運動をする 3. 飲酒は適量を守るか、しない 4. 1日7-8時間の睡眠を 5. 適正体重を維持する 6. 朝食を食べる 7. 間食をしない

出典：厚生労働省 e-ヘルスネット

地域貢献活動

【リレー・フォー・ライフ・ジャパン2015ぐんまに参加して】

チームリーダー 看護学部2年生 工藤 さゆり

今年3回目となるRFLぐんまに両学部の学生と教職員87名が参加しました。2時間交替で24時間のリレーウォークをつなぎ、チャリティーくじ・がん啓発キッズコーナーの運営など、会場ボランティアを担当しました。

途切れることのないリレーの列と、ルミナリエの光、みんなの笑顔は忘れられない思い出となりました。食事や飲み物等の支援を頂いた本学同窓会をはじめ、ご協力頂いた皆様に心より感謝申し上げます。ぜひ来年も参加したいと思います！



お知らせ

共同研究・若手研究発表会

看護学部および診療放射線学部の本学教員による研究成果の発表会を開催します。皆様のご参加をお待ちしております。

【日 時】平成28年3月10日(木)午前中 【対象者】群馬県内で従事する保健医療関係職の方
※詳細は、本学ホームページでお知らせします。

発行：群馬県立県民健康科学大学地域連携センター 〒371-0052 群馬県前橋市上沖町323-1
TEL:027-235-1211 FAX:027-235-2501 URL: http://www.gchs.ac.jp/



大学院博士後期課程の開設と法人化に向けて

学長 高田邦昭

すぐそこまで来た平成28年度は、博士後期課程が開設され、さらに平成30年度の法人化に向けた準備をする年にあたり、新たな挑戦が始まる年度となります。

博士後期課程開設

本学は、平成21年に大学院修士課程を設置し、急速に進展する保健・医療体制や技術の高度化への対応を図ってきました。修士課程では夜間開講、集中講義を実施することで現場で働く社会人の 方々を広く受け入れ、地域の人材養成に貢献しています。今回の大学院博士後期課程設置により、さらに上を目指す方たちへの道が開かれたと言えます。

博士後期課程で学んだ方 たちが指導者や教育者として様々な組織で活躍することで、地域全体の医療・保健やその教育がレベルアップすることでしょう。県内の看護・保健系の学部・学科を持つ大学の中で、大学院博士後期課程があるのは群馬大学と本学の2大学となります。この2大学が協力しながら地域を引っ張って行く体制になるとも言えますが、これは一方で重い責任を持つことも意味します。私たち大学人にはさらなるレベルアップが求められています。看護学、診療放射線学ともに実学であり、空疎な学問に流れることなく、地域や現場と密に連携しながら骨太な学問を築いていきたいと思えます。

法人化に向けて

平成27年11月の県議会で、本学設置者の大澤群馬県知事から、平成30年4月に本学を県立女子大学とともに一つの公立大学法人とする旨の答弁がありました。日本には800弱を数える大学がありますが、私立大学は学校法人や株式会社、国立大学は国立大学法人が、また大部分の公立大学は公立大学法人が設置しています。大学の中で法人化されていないのは20に満たない公立大学だけとなっています。高齢化が急速に進み社会が大きく変わって行く中で、大学は柔軟に人材養成、研究、社会貢献活動を推進して行くことが求められています。県立大学として地域とともに歩む本学は、法人化を機にさらに前進して行きます。引き続き地域の皆様のご支援をお願いいたします。



地域懇談会報告

平成27年11月12日(木)、本学にて地域懇談会を開催しました。

この行事は、地元桂萱地区及び芳賀地区の自治会長さんをお招きし、大学との意見交換を行う場として毎年開催しているものです。

学内見学では、本学の教育・研究活動の一端を紹介させていただきました。また、実験や講義を受けている学生の様子も見ていただき、有意義な意見交換をすることが出来ました。



活動報告

出前なんでも講座

看護学部 講師 田淵祥恵

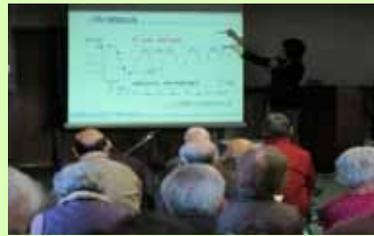
人気ベスト5
ランクイン!

大泉町教育委員会主催 生き生き健康塾(高齢者教室)の講座「睡眠環境を調える」の講師として参加いたしました。いきいき健康塾は全9回の講座で構成され、60歳以上の地域住民の皆様を対象に開催されています。当日は寒波の影響で残雪と突然の降雪に見舞われる中、会場に足を運んで下さった受講生の皆様に対し、睡眠の役割と快眠を得るための環境づくりを中心に情報提供をさせていただきました。



【受講者の声】

- ◇ 睡眠の種類とその役割、子供から成人そして高齢者の眠りは年齢によって変化することが理解できた。話を聞いていろいろ納得しました。
- ◇ より良い睡眠のために日中気を付けること、眠る時の環境、寝室の光の調整など、今日から実践したいことを教えてもらった。今日から役に立つと思います。



健科大ぐんまちゃんの健康アドバイス



眠ることは、呼吸すること、食べることと同様に、生きていくためには欠かせません。慢性的な不眠は生活習慣病のもとになることがわかっています。働いている方や学生さん等で、平日の睡眠不足を解消するために休日の起床時刻を遅らせる方が多いと思います。2時間以上の起床時刻の遅延は、夜間に眠気が起こるタイミングを遅らせ、休日明けの起床が辛くなります。睡眠習慣の規則性は重要です。休日も起床時刻の遅延は1時間程度に止め、日中眠気を感じたら昼寝を取り入れてみましょう。昼寝に適した時間は、12時から15時の間に30分以内です。昼寝に布団やベッドは不要です。椅子やテーブルにもたれる場所を確保し、就業中の方は休憩時間を活用してみましょう。

お知らせ

平成28年度「公開授業」のご案内

親しみやすい科目を中心に、学生以外の方も受講できるようにした授業です。学生と一緒に学んでみませんか？前期は4月から、後期は10月から開講します。受講料は無料です。1日限りの参加も可能です。

受講を希望される方は事前にお申し込みください。

講義名	開講日	
群馬県民の文化と生活	前期	水曜 13:00~14:30
「環境と健康」概論	前期	木曜 14:40~16:10
「人間の発達と健康」概論(通年)	前期	金曜 9:00~10:30
	後期	月曜 14:40~16:10

看護職研究支援事業:「看護研究セミナー」の受講者を募集しています!

看護研究を実施する際に必要な研究の基礎的知識を習得するためのセミナーを開催します。

第1回	看護研究計画書の作成	4月23日(土)	9:30~12:00
第2回	看護研究のための文献検索と文献検討		13:00~15:00
第3回	看護研究における倫理と手続き	5月14日(土)	10:00~12:00

【会場】 県民健康科学大学
【受講料】 無料

【対象】 群馬県内の病院、行政、訪問看護ステーション、福祉施設などに所属する看護師、保健師、助産師

【申込方法】 詳細は、本学ホームページ等でご確認ください。

発行: 群馬県立県民健康科学大学地域連携センター 〒371-0052 群馬県前橋市上沖町323-1
TEL: 027-235-1211 FAX: 027-235-2501 URL: <http://www.gchs.ac.jp/>

II その他の地域貢献活動

学会活動

【看護学部】

職位	氏名	活動・テーマ	主催	実施日時 (実施期間)	実施場所	対象者	参加人数
1 教授	田村文子	第35回日本看護科学学会学術集会 演題査読	公益社団法人 日本看護科学学会 第35回学術集会	平成27年12月5～6日	広島国際会議場他	学会員	—
2 教授	横山京子	日本看護教育学会 副理事 日本教育学会25周年記念大会 企画委員・実行委員	日本看護教育学会	—	—	—	—
3		日本看護科学学会 代議員	—	平成27年8月29日	前橋市民文化会館	看護職者	300名
4		日本看護科学学会 評議員	日本看護科学学会	—	—	—	—
5		一般社団法人 日本看護研究学会 評議員	一般社団法人 日本看護研究学会	平成27年度	—	学会員	—
6 教授	行田智子	第35回日本看護科学学会学術集会 演題査読	公益社団法人 日本看護科学学会 第35回学術集会	平成27年12月5～6日	広島国際会議場他	学会員	—
7		第24回日本健康教育学会学術大会 実行委員	日本健康教育学会	平成27年7月4日、5日	前橋元気プラザ21	学会員	300名
8 教授	中西陽子	第24回日本健康教育学会学術大会 準備委員	日本健康教育学会	平成27年7月4・5日	前橋中央公民館	学会員	約300名
9 教授	巴山玉蓮	日本看護教育学会25周年記念大会 企画局長	日本看護教育学会	平成27年8月29日	前橋市民文化会館	看護職者	304名
10 教授	山下暢子	日本看護教育学会 編集委員	—	平成27年度	—	—	—
11		日本看護教育学会 理事	—	平成27年度	—	—	—
12		日本看護教育学会 専任査読者	—	平成27年度	—	—	—
13 教授	狩野太郎	日本がん看護学会 代議員	日本がん看護学会	平成27年度	—	—	—
14		日本がん看護学会 ガイドライン 委員会書記	日本がん看護学会	平成27年度	—	—	—
15		日本がん看護学会 査読委員	日本がん看護学会	平成27年度	—	—	—
16		第30回日本がん看護学会学術集会、 一般演題座長	日本がん看護学会	平成28年2月21日	幕張メッセ国際会議場ほか	看護師	200名
17		第30回日本がん看護学会学術集会 企画委員	日本がん看護学会	平成27-28年	幕張メッセ国際会議場ほか	—	5000名
18		日本地域看護学会 代議員	一般社団法人 日本地域看護学会	平成27年6月20日 ～平成28年3月31日	—	学会員	—
19 准教授	大澤真奈美						

職位	氏名	活動・テーマ	主催	実施日時 (実施期間)	実施場所	対象者	参加人数
20 准教授	飯田 苗 恵	日本プライマリ・ケア連合学会 倫理委員会委員	日本プライマリ・ケア連合学会 (JPCA)	平成 27 年 4 月～	研究室	学会員	—
21		日本難病看護学会 理事	日本難病看護学会	平成 27 年 4 月～	東京医科歯科大学	学会員	—
22		日本看護科学学会 代議員	日本看護科学学会	平成 27 年 4 月～	—	学会員	—
23		群馬県看護協会 学会委員会委員 第 19 回群馬県看護学会 長	公益法人群馬県看護協会	平成 27 年 6 月 20 日～ (計 8 日) 学会開催：11 月 10 日	群馬県看護教育センター ベイシア文化ホール	群馬県看護 協会員	721 人
24		日本難病看護学会「学会認定：難 病看護師」認定制度 認定講習会 演習ファシリテーター	日本難病看護学会	平成 27 年 11 月 14 日、11 月 15 日	東京医科歯科大学	看護師・保 健師	50 名
25 准教授	岩波 浩 美	日本看護教育学会 25 周年記念大 会「看護職者の可能性を拓く研究 の継続」の企画委員・実行委員	日本看護教育学会	平成 27 年 8 月 29 日	前橋市民文化会館	看護職者	約 330 名
26 准教授	廣瀬 規 代 美	第 30 回日本がん看護学会 企 画委員	日本がん看護学会	平成 27 年度	—	学会員	—
27		第 30 回日本がん看護学会学術集会 査読委員	日本がん看護学会	平成 27 年度	—	学会員	—
28		第 30 回日本がん看護学会学術集会 一般演題座長	日本がん看護学会	平成 28 年 2 月 21 日	幕張メッセ (千葉市)	学会員	—
29 准教授	清水 裕 子	第 30 回日本がん看護学会学術集会 企画委員	日本がん看護学会	平成 27 年 4 月～ 平成 28 年 3 月	—	—	—
30		第 30 回日本がん看護学会学術集会 一般演題座長	日本がん看護学会	平成 28 年 2 月 20 日	幕張メッセ	看護職者	120 名
31 講師	高橋 裕 子	日本看護教育学会 第 25 周年記 念大会「看護職者の可能性を拓く 研究の継続」企画委員・実行委員	日本看護教育学会	平成 27 年 8 月 29 日	前橋市民文化会館	看護職者	304 名
32		日本看護教育学会 編集委員	日本看護教育学会	平成 27 年度	—	学会員	—
33 講師	高橋 さ つ き	日本保健医療行動科学会 評議員	日本保健医療行動科学会	平成 27 年度	—	—	—
34		日本保健医療行動科学会 編集委 員	日本保健医療行動科学会	平成 27 年度	—	—	—
35		日本腎不全看護学会 編集委員会 専任査読者	日本腎不全看護学会	平成 27 年度	—	—	—
36 講師	垣上 正 裕	日本看護教育学会 25 周年記念大 会 企画委員・実行委員	日本看護教育学会	平成 27 年 8 月 29 日	前橋市民文化会館	看護職者	304 名

職位	氏名	活動・テーマ	主催	実施日時 (実施期間)	実施場所	対象者	参加人数
37	橋本 晴美	第30回日本がん看護学会学術集会 査読委員	日本がん看護学会	平成27年度	—	学会員	—
38	富永 明子	日本看護教育学会25周年記念大会 企画委員・実行委員	日本看護教育学会	平成27年8月29日	前橋市民文化会館	看護職者	304名
39	浅見 優子	第30回日本がん看護学会学術集会 査読委員	日本がん看護学会	平成27年度	—	看護職者	—

【診療放射線学部】

職位	氏名	活動・テーマ	主催	実施日時 (実施期間)	実施場所	対象者	参加人数
1	下瀬川 正幸	日本医学物理学会 編集委員会委員	日本医学物理学会	平成27年度	—	—	—
2		医療情報研究会 コアメンバー	医療情報研究会	平成27年度	—	—	—
3	小倉 敏裕	第10,11,12回消化管CT技術研究会 企画	消化管CT技術研究会	平成27年4月11日	パシフィコ横浜	診療放射線 技師	15名
4		第10回消化管CT技術研究会開催、 運営、座長	消化管CT技術研究会	平成27年5月23日	東京・新宿	診療放射線 技師	約200名
5		第11回消化管CT技術研究会企画、 運営	消化管CT技術研究会	平成27年10月17日	北海道 札幌	診療放射線 技師	約150名
6		医用画像情報学会平成27年度年次 (第173回)大会 企画、運営	医用画像情報学会	平成27年10月17日	北海道 札幌	大学教員、 診療放射線 技師	100名
7		医用画像情報学会平成27年度春季 (第174回)大会 企画、運営	医用画像情報学会	平成28年2月6日	広島市	大学教員、 診療放射線 技師	100名
8	小倉 明夫	日本放射線技術学会理事会 第1回～7回	公益社団法人 日本放射線技術 学会	平成27年4月から	京都事務局	学会役員	40名
9		日本ラジオリジーム協会理事会 第1回～4回	一般社団法人 日本ラジオリ ジーム協会	平成27年4月から	東京	JRC 役員	14名
10		MR 専門技術者認定機構 理事会 第1回～3回	NPO 法人 MR 専門技術者認定 機構	平成27年4月から	東京	機構役員	12名
11		日本放射線技術学会 運営企画会 議 11回	公益社団法人 日本放射線技術 学会	平成27年4月から	京都	学会業務執 行理事	9名

職位	氏名	活動・テーマ	主催	実施日時 (実施期間)	実施場所	対象者	参加人数
12		第72回総会学術大会 実行委員会	日本放射線技術学会 第72回総会学術大会実行委員会	平成27年4月から	東京	大会実行委員	7名
13		JRC2016 実行委員会	一般社団法人 日本ラジオロジック協会	平成27年4月から	—	JRC2016 実行委員	21名
14		国際戦略委員会	日本放射線技術学会	平成27年4月から	金沢	医療関係者	10名
15		日本放射線技術学会・日本診療放射線技師会首脳懇談会	日本放射線技術学会・日本診療放射線技師会	平成27年4月から	京都・東京	両団体執行部	10名
16		第29回医学会総会開催準備	日本医学会総会	平成27年4月から	神戸	一般市民	50000名
17	教授 佐々木浩二	日本医学物理学会 代議員	日本医学物理学会	平成27年度	—	—	—
18		日本医学物理学会 QA委員会委員	日本医学物理学会	平成27年度	—	—	—
19		群馬放射線腫瘍研究会 世話人	群馬放射線腫瘍研究会	平成27年度	—	—	—
20		日本放射線技術学会 演題審査委員	日本放射線技術学会	平成27年度	—	—	—
21		Journal of Radiation Research 査読者	The Japan Radiation Research Society and Japanese Society for Radiation Oncology	平成27年度	—	—	—
22		Journal of Science and Technology of Nuclear Installations 査読者	Hindawi Publishing Corporation	平成27年度	—	—	—
23	准教授 倉石政彦	基礎講座 統計「 $p<0.05$ でなければ駄目ですか」	公益社団法人 日本放射線技術学会 関東支部	平成27年12月13日	ホテルメルトリポリタン長野	学会員	約200名
24	准教授 高橋康幸	Annals of Nuclear Medicine (Associate Editor)	日本核医学会	平成27年11月5日	新宿区	学会員	—
25		日本核医学技術学会 編集委員会委員	日本核医学技術学会	平成27年11月5日	新宿区	学会員	—
26	准教授 高橋康幸 助教 米持圭太	実践！核医学画像処理マスター	臨床画像診断懇話会	平成27年10月28日	本学	群馬県内核医学施設	30名
27		核医学画像処理に関する発表など	群馬県核医学研究会	平成27年11月14日	群馬大学	群馬県内核医学施設	100名
28	准教授 根岸徹	学生選抜セッション座長	日本放射線技術学会	平成27年4月16日	パシフィコ横浜	学生・学会会員	100名
29		デジタルマンモグラフィの基礎	日本放射線技術学会東京支部	平成27年5月16日	駒澤大学	学会会員・学生	100名

職位	氏名	活動・テーマ	主催	実施日時 (実施期間)	実施場所	対象者	参加人数
30 准教授	根 岸 徹	医療被ばく測定セミナー	日本放射線技術学会関東支部	平成 27 年 6 月 6-7 日	群馬大学医学部付属病院	診療放射線 技師	30 名
31		半導体線量計の特徴	X 線装置研究会緑陰講座	平成 27 年 8 月 22-23 日	東芝那須工場	診療放射線 技師	30 名
32		デジタルマンモグラフィ講習会	日本放射線技術学会撮影部会・ 東京支部	平成 27 年 8 月 29 日	首都大学東京	診療放射線 技師	100 名
33		線量計作成セミナー	日本放射線技術学会計測部会・ 北海道支部	平成 27 年 9 月 11-13 日	北海道大学	診療放射線 技師	10 名
34		診断参考レベルセミナー	日本放射線技術学会防護部会・ 関東支部	平成 27 年 9 月 19 日	三井ガーデンホテル千葉	診療放射線 技師	150 名
35		平均乳腺線量の測定	日本放射線技術学会計測部会・ 中部支部	平成 27 年 10 月 8 日	金沢市文化ホール	診療放射線 技師	15 名
36		放射線防護フォーラム (診断参考 レベル)	日本放射線技術学会関東支部	平成 27 年 10 月 9 日	金沢文化ホール	診療放射線 技師	150 名
37		マンモグラフィ講習会	日本放射線技術学会撮影部会・ 関東支部	平成 27 年 11 月 15 日	県立県民健康科学大学	診療放射線 技師	50 名
38		デジタルマンモグラフィ講習会	日本乳癌検診精度管理中央委員 会	平成 28 年 1 月 30-31 日	富士ファイルム (ミッドタ ウン)	診療放射線 技師	100 名
39		マンモグラフィの被ばく線量管理	東京埼玉医用乳房画像研究会	平成 28 年 2 月 21 日	慶応大学病院	診療放射線 技師	60 名
40		デジタルマンモグラフィ講習会	日本乳癌検診精度管理中央委員 会	平成 28 年 3 月 5 日	東北大学医学部付属病院	診療放射線 技師	50 名
41 准教授	杉 野 雅 人	日本保健物理学会国民線量評価委 員会	日本保健物理学会	平成 27 年 8 月 19 日～ 現在	—	—	—
42 准教授	堀 謙 太	日本バーチャルリアリティ (VR) 学会 論文委員	日本 VR 学会	平成 27 年度	—	—	—
43		日本 VR 学会論文誌 査読者	日本 VR 学会	平成 27 年度	—	—	—
44		日本 VR 学会論文誌 編集委員	日本 VR 学会	平成 27 年度	—	—	—
45		教育システム情報学会論文誌 査 読者	教育システム情報学会	平成 27 年度	—	—	—
46 准教授	五 十 嵐 博	フレッシュヤーズセミナー「医療安 全」, 「感染対策」	日本診療放射線技師会、群馬県 診療放射線技師会	平成 27 年 4 月 26 日	本学	診療放射線 技師	約 20 名

職位	氏名	活動・テーマ	主催	実施日時 (実施期間)	実施場所	対象者	参加人数
47 准教授 准教授 嘱託	五十嵐 博 星野 修 青木 佳	平成27年度 群馬県がん検診エック クス線撮影従事者講習会の企画・ 運営	一般社団法人群馬県診療放射線 技師会	平成27年10月13日、11 月10日、12月8日	本学	診療放射線 技師	延 174名
48 准教授	五十嵐 博	一般社団法人群馬県診療放射線技 師会女性部勉強会の運営	一般社団法人群馬県診療放射線 技師会	平成28年2月9日	本学	診療放射線 技師	41名
49		一般社団法人群馬県診療放射線技 師会 常務理事、学術研修部長	一般社団法人群馬県診療放射線 技師会	平成27年4月1日～ 平成28年3月31日	群馬メディアカルセンター 等	—	—
50		日本放射線カウセンセリング学会 理事	日本放射線カウセンセリング学会	平成27年4月1日～ 平成28年3月31日	—	—	—
51		大山人間科学研究会 副会長	大山人間科学研究会	平成27年4月1日～ 平成28年3月31日	渋谷区千駄ヶ谷区民会館 等	会員	10名
52		日本放射線カウセンセリング学会 編集委員	日本放射線カウセンセリング学会	平成27年4月1日～ 平成28年3月31日	—	学会員	—
53 准教授 嘱託	五十嵐 博 青木 佳	日本放射線カウセンセリング学会 倫理委員会	日本放射線カウセンセリング学会	平成27年4月1日～ 平成28年3月31日	—	—	—
54 講師	渡部 晴之	日本放射線技術学会雑誌 査読者	日本放射線技術学会	平成27年度	—	—	—
55		Radiological Physics and Technolo gy (RPT) 査読者	日本放射線技術学会, 日本医学 物理学会	平成27年度	—	—	—
56 講師	林 則夫	統計処理演習(講義)/PCへの データの取り込みとデータ解析実 習(演習)	日本放射線技術学会撮影部会	平成27年8月22,23日	GEヘルスケア・ジャパ ンTAC	医療技術者	20名
57		日本放射線技術学会雑誌 査読者	日本放射線技術学会	平成27年度	—	—	—
58		日本放射線技術学会 評議員	日本放射線技術学会	平成27年度	—	—	—
59		日本放射線技術学会 撮影部会委 員	日本放射線技術学会	平成27年度	—	—	—
60		日本放射線技術学会 編集委員会 委員	日本放射線技術学会	平成27年度	—	—	—
61		群馬MR研究会の企画、運営	群馬MR研究会	平成27年度	—	—	—
62		日本放射線技術学会「MRIの体内 イオンプラント等の安全性に関する 検証班」の班員	日本放射線技術学会	平成27年度	—	—	—
63		Gunma gyro users meeting 代表世 話人	Gunma gyro users meeting	平成27年度	—	—	—

II - 2. 一般住民・団体を対象とした講演・研修

一般住民・団体を対象とした講演・研修

【看護学部】

職位	氏名	活動・テーマ	主催	実施日時 (実施期間)	実施場所	対象者	参加人数
1	基雪美 藤美朱 木谷りえ 齋鈴井 塩ノ木馨 坪佐学生 塚アキラ 6名	健康教室 「華麗に加齢講座パート2 脳を 使ってハツラツ生活」	前橋市上沖町自治会	平成27年9月13日	前橋市上沖町公民館	前橋市上沖 町住民	23名
2	基雪美 藤美朱 木谷りえ 齋鈴井 塩ノ木馨 坪佐学生 塚アキラ 6名	上沖町ふれあい会食会における健 康情報提供 「血圧を上げないための冬の生活と 脳トレ」	前橋市上沖町自治会	平成28年2月6日	前橋市上沖町公民館	前橋市上沖 町住民	20名、 役員等 13名
3	田村文子	「ストレスへの気づきとうつ病の予 防」	ハートクラブ研修	平成27年6月19日	県立心臓血管センター リハビリ棟1F 大会議 室	群馬県立心 臓血管セン ター病院 ポラソニ ア	20名
4		大学出張講義「青年期の心と健康 ー摂食障害を中心と してー」	高崎健康福祉大学付属高校	平成27年7月3日	高崎健康福祉大学付属高 校	高校2年生	50名
5	山京子 横益富 子永方 高野	群馬県立健康科学大学へようこ そ！	前橋市桃木小学校	平成27年6月12日	本学第2看護実習室	桃木小学校 2年生	65名
6	子紀子 子尚徳 子絵子	2015年度女子留学生in群馬県留學 生日本語弁論大会	WFWP 留学生日本語弁論大会 群馬県大会実行委員会	平成27年6月27日	高崎市総合福祉センター	女子留學生 他	200名
7	行田智子 中西陽子	死と向き合う人々とその家族を支 える看護	栃木県立佐野東高校	平成27年6月19日	伊勢崎清明高等学校	高校2年生	60名
8	狩野太郎	群馬県がん患者ミーティング2016 企画・実行委員、講演会講師	群馬県がん患者団体連絡協議会	平成28年3月26日	群馬県健康づくり財団	患者・一般 市民	30名
9		群馬県がん診療連携拠点病院連絡 協議会市民講座企画ワーキングメ ンバー	群馬県/群馬県診療連携拠点病 院連絡協議会	平成27年6月20日	群馬会館	患者・一般 市民	200名

職位	氏名	活動・テーマ	主催	実施日時 (実施期間)	実施場所	対象者	参加人数
10		健康フェスティバル in まえばし 2015	前橋市	平成 27 年 11 月 1 日	前橋市元氣プラザ 21	小学生等	250 名
11	森川 功	婚姻と生殖：個人の価値観と倫理	カトリック碑文谷教会	平成 27 年 4 月 18 日～ 平成 28 年 3 月 19 日	カトリック碑文谷教会	カトリック教会での挙式を予定している者	約 150 名 (延人数)
12		生と死	板橋グリーンカレッジ	平成 27 年 5 月 8 日～ 平成 27 年 5 月 29 日	板橋グリーンカレッジ	60 歳以上の板橋区民	312 名 (延人数)
13		バイオエシックス	板橋グリーンカレッジ	平成 27 年 9 月 15 日～ 平成 27 年 9 月 29 日	板橋グリーンカレッジ	60 歳以上の板橋区民	約 500 名 (延人数)
14	岩波 浩美	第 21 期救急科「観察」	群馬県消防学校	平成 27 年 10 月 14 日～ 10 月 28 日	群馬県消防学校	消防学校救急科学生	87 名
15	廣瀬 規代美	大学出張講義「緩和ケアーがん患者さんの苦痛を取り除くために」	群馬県立富岡高等学校	平成 27 年 11 月 17 日	群馬県立富岡高等学校	高校 2 年生	20 名
16	河内 直美	自分を生かすために今をどう過ごすか	群馬県立前橋南高等学校	平成 27 年 12 月 10 日	前橋南高等学校	高校 1 年生	60 名
17	高橋 裕子	思春期ピアカウンセリング・養成セミナー（前期コース・後期コース）	群馬ピアカウンセリング研究会	平成 27 年 6 月 28 日 7 月 5・11・12 日、 平成 28 年 6・7 日	高崎健康福祉大学	県内大学生	30 名
18	高橋 さつき 佐藤 正樹	まえばし秋収穫祭市 & 健康フェスタ in まえばし 2015	前橋市	平成 27 年 11 月 1 日	前橋プラザ元氣 21	前橋市民	約 50 名

【診療放射線学部】

職位	氏名	活動・テーマ	主催	実施日時 (実施期間)	実施場所	対象者	参加人数
1	佐々木 浩二	本学 第 1 回公開講座 講師 「身近で受けられる高精度放射線治療・原理から重粒子線治療まで」	群馬県立県民健康科学大学地域連携センター	平成 27 年 8 月 29 日	本学 多目的ホール	一般住民	50 名
2	倉石 政彦	医療従事者の放射線暴露からの防御	埼玉県立常盤高等学校	平成 27 年 10 月 6 日	埼玉県立常盤高等学校	看護科 2 年生	80 名
3		放射線治療と放射線診断	埼玉県立常盤高等学校	平成 27 年 10 月 6 日	埼玉県立常盤高等学校	看護科 3 年生	80 名
4	五十嵐 博	日本放射線カウンティング学会 相談員	日本放射線カウンティング学会	平成 27 年 4 月 1 日～ 平成 28 年 3 月 31 日	—	一般住民	—

II - 3. 保健医療専門職を対象とした講演・研修

保健医療専門職を対象とした講演・研修

【看護学部】

職位	氏名	活動・テーマ	主催	実施日時 (実施期間)	実施場所	対象者	参加人数
1 教授	齋藤 基	平成27年度認定看護管理者制度セミナー カンドレレベル教育 課程「ヘルスケアサービス管理論」	群馬県看護協会	平成27年9月25日	群馬県看護教育センター	看護職者	28名
2		平成27年度認定看護管理者制度 ファーストレベル教育課程「看護 専門職論『看護関連法規』」	群馬県看護協会	平成27年8月20日	群馬県看護教育センター	看護職者	66名
3		平成27年度新任保健師研修会「対 人援助における記録について」	群馬県健康福祉部医務課	平成27年9月28日	本学	新任保健師	約30名
4 教授 講師 講師 講師	齋藤 基 鈴木 雪 塩谷 美朱 坪井 りえ	平成27年度保健師職能研修会「実 践力アップ事例検討会」(1回目: ファシリテーター研修会、2回目: 実践事例検討会)	群馬県看護協会	平成27年9月12日、10 月10日	群馬県看護教育センター	群馬県内の 行政機関等 に所属する 保健師	1回目 :21名 2回目 :27名
5 教授	田村 文子	群馬県臨床指導者講習会 「実習指導の実践:精神看護学」	群馬県(委託先:社団法人 群 馬県看護協会)	平成27年7月9日～7 月29日	—	看護師	70名
6 教授	行田 智子	養育支援訪問員の養成講座 「家族の強みと課題の評価～支援計 画の立て方～」	HEALTHY FAMILY はまま つ	平成27年11月14日	浜松市勤労会館Uホー ル	看護職、保 育士等	10名
7 教授	中西 陽子	看取りケア講座「家族の思いを知 る」	群馬県介護支援センター	平成27年9月28日 平成28年2月29日	群馬県介護支援センター	介護士・看 護師	30名・ 32名
8 教授	巴山 玉蓮	平成27年度認定看護管理者教育運 営委員	群馬県看護協会	平成26年4月22日 以降6回	群馬県看護教育センター	協会員	9名
9		平成27年度認定看護管理者制度セ カンドレレベル教育課程(看護組織 管理論)	群馬県看護協会	7年9月9日以降5回	群馬県看護教育センター	看護協会員	30名
10		「平成27年度フォローアップ研 修」講師	群馬県看護協会	平成27年11月25日	群馬県看護教育センター	看護職	約100名
11 教授	山下 暢子	群馬県実習指導者講習会「看護論」	群馬県	平成27年6月2日 ～平成27年7月31日	群馬県庁舎 群馬県市町村会館	実習指導者	約70名
12		安全確保に必要な知識と看護業務 の安全確保	群馬県	平成27年12月11日	群馬県立県民健康科学大 学	准看護師	1名
13		和歌山県実習指導者講習会「看護 教育計画および評価」	和歌山県	平成27年7月27日 ～平成27年7月28日	県民文化会館会議室	実習指導者	約40名

II - 3. 保健医療専門職を対象とした講演・研修

職位	氏名	活動・テーマ	主催	実施日時 (実施期間)	実施場所	対象者	参加人数
14		臨床指導者講習会「看護学実習に関する基礎的知識の理解と活用」	前橋赤十字病院	平成27年8月21日、 ” 8月25日	前橋赤十字病院	実習指導者	約40名
15	狩野太郎 佐藤正樹 大澤康子	平成27年度認定看護管理者制度ファーストレベル教育課程（看護情報論）	群馬県看護協会	平成27年8月26-27日、9月2-3日	群馬県看護教育センター	看護師	60名
16	狩野太郎	平成27年ぐんま認定介護福祉士養成研修 講師 「研究方法」[研究活動について]	群馬県介護研修センター	平成27年10月23日	群馬県介護研修センター	介護福祉士	80名
17	大澤真奈美	実習指導者講習会 講義「保健師教育課程」	群馬県看護協会	平成27年6月3日	群馬県看護協会	県内実習指導者	70名
18	大澤真奈美 鈴木美雪 塩谷朱美 坪井りえ	平成27年度 群馬県新任保健師研修会 講義「地域診断の実際」・演習「地域診断の実際－グループ発表」	群馬県保健福祉部医務課看護係	平成27年9月28日、平成28年3月9日	本学	県内新任保健師	24名
19		平成27年度 群馬県公衆衛生看護学実習等指導者研修会グループワーク「実習指導の実際～教材の作成とその活用～」リアシリテーター等	群馬県保健福祉部医務課看護係	平成27年4月27日	上武大学	県内実習指導者（保健師）	50名
20	森川功	看護師に求められる倫理（初級編）（中級編）	埼玉県看護協会	平成27年7月28日～ 平成27年8月26日	埼玉地域看護研修センター	看護師	約350名 (延人数)
21		看護の中の倫理—信頼される看護職を目指して—（初級編）（中級編）	群馬県看護協会	平成27年8月19日～ 平成27年9月2日	群馬看護教育センター	看護師	約250名 (延人数)
22		介護・福祉現場に求められる倫理の基礎知識と原則について	かながわ福祉サービス振興会	平成27年11月25日	かながわ福祉サービス振興会	介護士	8名
23	飯田苗恵	平成27年度難病対策専門研修（事例検討）会	群馬県難病相談支援センター・群馬県	平成27年6月5日、 平成28年1月22日	群馬県庁	保健所保健師等	29人(延べ人数)
24		平成27年度多職種連携研修 講師「多職種連携を高めるチームマネジメントの基礎知識」	群馬県健康福祉部障害政策課	平成28年3月25日	群馬県庁	看護師・介護職・保健師	28名
25	飯田苗恵 鈴木美雪 佐々木馨子	平成27年度難病対策専門研修会 講師「在宅呼吸療法の基礎知識」	群馬県健康福祉部保健予防課	平成27年11月16日	本学多目的ホール	保健福祉事務所・中核市に勤務する保健師	12名

II - 3. 保健医療専門職を対象とした講演・研修

職位	氏名	活動・テーマ	主催	実施日時 (実施期間)	実施場所	対象者	参加人数
26	飯田 苗 恵	平成27年度訪問看護研修(指導者編)指導方法と評価OJT(所内教育)の展開 講師	群馬県看護協会	平成27年12月17日	群馬県看護教育センター	訪問看護師	13名
27	岩波 浩 美	看護職の倫理と責任	群馬県	平成28年8月25日	本学	准看護師	1名
28		群馬県実習指導者講習会「実習指導の原理」	群馬県看護協会	平成27年6月9日～7月22日	群馬県看護協会	看護職者	70名 (2回は90名)
29		看護研究セミナー「看護学研究計画書の作成」	本学地域連携センター	平成27年4月29日	本学	看護職者	約40名
30		看護研究個別支援	本学地域連携センター	平成27年7月～平成28年3月	本学	看護職者	1施設 (約5名)
31		文部科学省GP課題解決型高度医療人材養成プログラム事業「群馬一丸で育てる地域完結型看護リーダー」	群馬大学大学院保健学研究科看護学講座	平成27年7月22日	群馬大学医学部附属病院	看護職者	約40名
32	廣瀬 規 代 美	看護研究指導	独立行政法人国立病院機構沼田病院	平成27年度	本学・沼田病院	看護師	6名
33	清水 裕 子 小林 万里 子	看護研究指導・看護研究発表会	国立病院機構 高崎総合医療センター 看護師部	平成27年5月25日 ～平成28年2月29日(6日間)	高崎総合医療センター	当該施設看護職員	30名・80名
34	清水 裕 子	新人看護職員研修事業 教育担当者研修 「教育に関する基礎知識」	群馬県(委託先:群馬県看護協会)	平成27年6月18日	群馬県看護教育センター	看護師	80名
35		准看護師再教育研修 「チーム医療とコミュニケーション」	群馬県(委託先:群馬県立県民健康科学大学)	平成27年9月3日	県立県民健康科学大学	准看護師	1名
36		教育研修 准看護師進学支援 「看護の動向」	群馬県看護協会	平成27年9月25日	群馬県看護教育センター	准看護師	28名
37		がん分野における中堅看護師実務研修 「チーム医療」	群馬県(委託先:群馬大学医学部附属病院)	平成27年10月14日	群馬大学医学部附属病院	看護師	20名
38		認定看護管理者 フォーストレベル教育課程 「看護情報の倫理的側面と対応」	群馬県看護協会	平成27年10月14日	群馬県看護教育センター	看護師	66名

II - 3. 保健医療専門職を対象とした講演・研修

職位	氏名	活動・テーマ	主催	実施日時 (実施期間)	実施場所	対象者	参加人数
39		看護研究個別支援	群馬県立県民健康科学大学 地域連携センター	平成 27 年 7 月 ～平成 28 年 3 月	県立県民健康科学大学	看護師	2 名
40	龍野 浩 寿	日本精神科看護協会兵庫支部 看護研究発表会講演	日本精神科看護協会兵庫支部	平成 27 年 11 月 4 日	兵庫中央労働センター	看護師	120 名
41		看護倫理～精神科看護の事例を通 じた倫理的な課題の検討～	県立病院連携事業	平成 27 年 12 月 5 日	群馬県立精神医療セン ター	看護師	45 名
42		看護研究指導	公益法人復光会 総武病院	平成 27 年 10 月～ 平成 28 年 3 月	総武病院研修室	看護師	30 名
43	垣上 正 裕	看護研究指導	公立茨川総合病院看護部	平成 27 年 9 月 15 日 ～平成 27 年 9 月 18 日	本学	病院看護師	6 名
44	橋本 晴 美	看護研究個別支援	群馬県立県民健康科学大学 地域連携センター	平成 26 年 7 月 ～平成 27 年 3 月	群馬県立がんセンター	看護師	1 名
45	富永 明 子	プリセプター研修	県立病院連携事業	平成 28 年 3 月 4 日	群馬県立小児医療セン ター	看護職者	25 名
46		看護研究個別支援	群馬県立県民健康科学大学 地域連携センター	平成 27 年 6 月～ 平成 28 年 3 月	群馬県立小児医療セン ター	看護師	1 名
47	木村 美 香	患者－医療従事者間のコミュニ ケーション	群馬県	平成 27 年 8 月 25 日	群馬県立県民健康科学大 学	准看護師	1 名
48		看護研究個別支援	群馬県立県民健康科学大学 地域連携センター	平成 27 年 6 月 ～平成 28 年 3 月	群馬県立県民健康科学大 学	看護師	5 名
49		看護研究継続支援	群馬県立県民健康科学大学 地域連携センター	平成 27 年 6 月 ～平成 28 年 3 月	群馬県立県民健康科学大 学	看護師	1 名

【診療放射線学部】

職位	氏名	活動・テーマ	主催	実施日時 (実施期間)	実施場所	対象者	参加人数
1	下瀬 川 正 幸	シンポジウム「画像処理技術」 (日本放射線技術学会第 71 回総会 学術大会シンポジウム)	日本放射線技術学会	平成 27 年 4 月 17 日	パシフィコ横浜	診療放射線 技師等	約 500 名
2	小倉 明 夫	MRI 領域での研究の進め方	第 17 回 青森 CT・MRI 診断・ 技術研究会	平成 27 年 5 月 9 日	青森	医療関係者	114 名
3		T1,T2 緩和時間とは何か?	Advancer CT.MR 2015	平成 27 年 6 月 20 日	軽井沢	医療関係者	317 名

II - 3. 保健医療専門職を対象とした講演・研修

職位	氏名	活動・テーマ	主催	実施日時 (実施期間)	実施場所	対象者	参加人数
4	小倉明夫	MR 専門技術者認定試験の過去問から学ぶ基礎知識	群馬 MR 研究会	平成 27 年 6 月 6 日	群馬	医療関係者	67 名
5		研究のすすめ	第 13 回 広島国際フォーラム	平成 27 年 6 月 20 日	広島	医療関係者	143 名
6		MRI 領域での研究の進め方	第 28 回新潟 MR 技術研究会	平成 27 年 6 月 27 日	新潟	医療関係者	243 名
7		診療放射線技師の理想像	労働者健康福祉機構 診療放射線技師研修	—	静岡	診療放射線技師	42 名
8	佐々木浩二	がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン 国際協力型先端医療医学物理学指導者コース講演会 講師 「放射線治療計画装置のデータ測定と品質管理」	関東国際がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン	平成 27 年 2 月 7 日	本学 多目的ホール	医学物理士・診療放射線技師、大学院生	66 名
9		がん診療連携拠点病院 機能強化事業 医療従事者研修会 講師 「放射線治療における医学物理士・放射線技師の役割」	国立病院機構 沼田病院	平成 27 年 10 月 28 日	国立病院機構 沼田病院	医師、看護師・診療放射線技師・医学物理士・医療関係職種	45 名
10		第 10 回南東北病院 ORION 研究会 講師 「放射線治療におけるビームデータ測定」	脳神経疾患研究所 総合南東北病院	平成 27 年 5 月 16 日	脳神経疾患研究所 総合南東北病院	医師・診療放射線技師・医学物理士	35 名
11		放射線治療 医学物理講義 講師 「IMRT 外部評価のための測定」	磐田市立総合病院	平成 27 年 7 月 10 日	磐田市立総合病院	医学物理士・診療放射線技師・医師	18 名
12		第 10 回 明日のガンマナイフを担う会 講師 「放射線治療における医学物理士・放射線技師の役割」	明日のガンマナイフを担う会	平成 27 年 9 月 19 日	松本民芸館	医師・看護師・診療放射線技師・医学物理士	112 名
13	倉石政彦	倫理審査委員会 外部委員	公益社団法人 群馬県助産師会	平成 27 年 10 月 6 日	前橋市（会議開催）	会員	約 60 人
14	根岸徹	共同研究若手研究発表会座長	群馬県立健康科学大学	平成 28 年 3 月 10 日	県立健康科学大学	教職員・大学院生	50 名

II - 3. 保健医療専門職を対象とした講演・研修

職位	氏名	活動・テーマ	主催	実施日時 (実施期間)	実施場所	対象者	参加人数
15	杉野雅人	低線量被ばく研究の現状 放射線の健康影響に関する人材研修会 「放射線の基礎知識と健康影響」	群馬県診療放射線技師会 環境測定部	平成27年3月11日	本学 多目的ホール	診療放射線技師	約40名
16		コミュニケーションコーナーの活動支援 「環境放射線よもやま話」	原子力安全研究協会（環境省委託事業）	平成27年10月30日	本学 多目的ホール	診療放射線技師	約20名
17			原子力安全研究協会（環境省委託事業）	平成28年3月6日	本学 多目的ホール	診療放射線技師	約40名

行政組織での活動等

【看護学部】

職位	氏名	活動・テーマ	主催	実施日時 (実施期間)	実施場所	対象者	参加人数
1 教授	藤 基	前橋市国民健康保険運営協議会	前橋市	平成 27 年 4 月 1 日 ～平成 28 年 3 月 31 日	前橋市役所	—	—
2 教授	田 文子	薬物依存（アルコール依存）について	群馬県健康福祉部医務課	平成 27 年 8 月 25 日	本学第 11 演習室	准看護師	1 名
3 教授	横 山 京子	県立病院総合研究選考・評価委員	群馬県病院局	平成 27 年 6 月 25 日 平成 28 年 3 月 16 日	県庁第 1 特別会議室	県立病院職員	—
4		ぐんま地域・大学連携協議会	群馬県企画部	平成 27 年 5 月 8 日	ぐんま男女共同企画センター	県内大学、短期大学	—
5 教授	山下 暢子	IMS 実習指導者講習会「看護論」	IMS	平成 27 年 11 月 23 日～平成 27 年 12 月 25 日	IMS 横浜国際看護専門学校	実習指導者	約 53 名
6 教授 講師 講師 助手	狩野 太郎 樋口 友紀 福島 昌子 竹 由 恵	県内企業、サンヨー(株)との車いす テーマブル共同開発	群馬県産業経済部次世代産業課、 北関東産官学研究会	平成 27 年度	—	—	—
7		群馬県ヘルスケア産業展 2015「産 学連携共同開発活動に関する報告」	北関東産官学研究会	平成 27 年 10 月 28 日	ビエント高崎	県内企業および医療関係者	870 名
8 准教授	大澤 真奈美	前橋市自立支援給付認定審査会委員	前橋市	平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月、計 6 回	前橋市保健所	前橋市民	審査対象者約 90 名
9		前橋市食育推進会議 副委員長	前橋市健康増進課	平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月、計 2 回	前橋市保健センター	—	—
10 准教授	飯田 苗 恵	前橋市介護認定審査会委員	前橋市（介護保険室）	平成 27 年 4 月 1 日 ～（2 回 / 月開催）	前橋市職員研修会館	要介護申請者	25～30 名 / 回
11 講師	垣上 正 裕	群馬県立高校教員 平成 27 年度研修講座 高校 10 年目経験者研修 同一性障害について	群馬県教育委員会	平成 27 年 8 月 20 日	群馬県総合教育センター	高校教員	70 名

【診療放射線学部】

職位	氏名	活動・テーマ	主催	実施日時 (実施期間)	実施場所	対象者	参加人数
1 教授	佐々木 浩二	放射線治療品質管理委員会 外部委員 空間線量率測定の監修およびコメント提供（前橋市及びみどり市のH.P.に掲載）	静岡県立静岡がんセンター	平成 27 年度	静岡県立静岡がんセンター	—	—
2 准教授	杉野 雅人	—	前橋市及びみどり市	平成 23 年 6 月～現在	—	前橋市及びみどり市	—
3	—	川場村移動教室に関する空間線量率評価および情報資料提供	川場村	平成 23 年 7 月～現在	—	世田谷区在住の小学 5 年生とその保護者	—
4	—	環境放射線の測定・評価に関する研究協力	放射線医学総合研究所	平成 26 年 4 月 1 日～ 平成 27 年 3 月 31 日	—	—	—
5	—	日常生活における個人被ばく線量測定	日本アイソトープ協会	平成 27 年 10 月 5 日～ 平成 28 年 2 月 11 日	—	—	—
6 准教授 講師 講師 助教	五十嵐 晴之夫 博士 渡部 則圭 林 米持	群馬県庁放射線技師会 第 25 回 学術部研究発表会の企画・運営	群馬県庁放射線技師会	平成 28 年 2 月 27 日	前橋商工会議所会館	診療放射線技師	約 50 名

任意団体での活動等

【看護学部】

職位	氏名	活動・テーマ	主催	実施日時 (実施期間)	実施場所	対象者	参加人数
教授 准教授 講師 講師 助教	基美恵雪美え子 藤真奈苗美朱りえ 大田美穂 飯田美穂 鈴木美穂 塩谷美穂 坪井美穂 佐々木馨子	群馬県地域看護学教育連絡会議	群馬県地域看護学教育連絡会議	平成27年9月11日	本学第11演習室	県内看護系 大学地域看 護学教員・ 県健康福祉 部医務課	19名
教授	横山京子	文部科学省 問題解決型高度医療 人材養成プログラム 【群馬一丸で育てる地域完結型看護 リーダー】事業 在宅看護・医療推進検討委員会	群馬大学大学院保健学研究科	平成27年9月17日 平成28年3月10日	群馬大学保健学科 新棟2階大学院講義室	—	—
教授		群馬県看護協会倫理委員会 群馬県看護協会研究倫理審査委員 会規程の検討	群馬県看護協会	平成28年3月29日	群馬県看護協会会議室1	—	8名
教授	狩野太郎	リレーフォーライフジャパン2015 ぐんま副実行委員長	日本対がん協会、リレーフォー ライフジャパンぐんま実行委員 会	平成27年度	—	—	6850名
		群馬県がん看護研究会 地域貢献 活動担当理事	—	平成27年度	—	看護師・患 者	—
		群馬県がん患者団体連絡協議会 運営委員	群馬県がん患者団体連絡協議会	平成27年度	—	—	—
准教授 講師 講師	恵苗美昌子 田木島 鈴木福	難病看護を考える会	群馬県立県民健康科学大学教員・ 県内他大学教員	平成28年3月12日	県立県民健康科学大学	看護職等	10名
准教授	廣瀬規代美	群馬がん看護研究会 理事・教育 委員会委員長	群馬がん看護研究会	平成27年度	群馬大学他	会員	—
准教授	清水裕子	群馬がん看護研究会 理事（教育 委員会委員兼務）	群馬がん看護研究会	平成27年4月 ～平成28年3月	—	患者・医療 職者	—
		第12回 群馬がん看護フォーラム 一般演題座長	群馬がん看護研究会	平成27年5月30日	県立県民健康科学大学	患者・医療 職者	100名

II - 5. 任意団体での活動等

職位	氏名	活動・テーマ	主催	実施日時 (実施期間)	実施場所	対象者	参加人数
11		日本医療マネジメント学会 第5回群馬県支部学術集会 一般 演題座長	日本医療マネジメント学会 群馬 県支部	平成28年2月7日	高崎シテイギャラリー	医療職者	30名
12		群馬県看護協会 看護師職能I (病院 領域) 委員会委員長	群馬県看護協会	平成27年7月 ～平成28年3月	群馬県看護協会	—	—
13	高橋 裕	「相手も自分も大切に」 [ライフライン]	群馬ピアカウんセンリグ研究会	平成27年9月9日	玉村中学校	中学生	—
14		第31回桂置地区のびゆくこどもの つどい・ ふれあいひろば 参加協力	群馬ピアカウんセンリグ研究会	平成26年9月15日	富岡高等学校	高校生	—
15	益子 直紀	群馬県立小児医療センターフオン タンの会 (フオンタンス手術後患者とその家族 への支援の会) 運営補助学生ボランティア派遣	前橋市のびゆくこどものつどい 実行委員会	平成27年5月10日	桂置公民館、桂置中学校	桂置地区住 民ほか	多数
16		群馬県立小児医療センターフオン タンの会 (フオンタンス手術後患者とその家族 への支援の会) 運営補助学生ボランティア派遣	群馬県立小児医療センター	平成27年11月28日	県立小児医療センター	フオンタン 手術後患者 とその家族	約70名
17		群馬県立小児医療センターワークリス マンス会 参加協力	群馬県立小児医療センター	平成27年12月12日	県立小児医療センター	入院患者と その家族	多数
18	高橋 さつき	群馬県腎不全看護セミナー 幹事 会	群馬県腎不全看護セミナー	平成27年4月16日、5月 21日、6月18日、9月17 日、10月15日、12月15日、 2月16日	群馬大学医学部保健学科	看護師等	毎回10 名前後
19	樋口 友紀 福島 昌子	高齢者施設における学生ボラン ティアのコーディネート	群馬中央病院付属老人保健 施設および本学	平成27年4月～ (計 3回)	群馬中央病院付属介護老 人保健施設	施設入所者	5名 (延人数)
20		高齢者施設における学生ボラン ティアのコーディネート	デイサービスセンター鶴亀の里 および本学	平成27年4月～ (計1 回)	デイサービスセンター 鶴亀の里	施設利用者	1名 (延人数)
21	鈴木 美雪 福島 昌子 佐々木 馨子	平成27年度日本ALS協会群馬県 支部 医療顧問 患者総会運営補助、学生ボランティ ア派遣	日本ALS協会群馬県支部	平成27年6月21日	群馬県社会福祉総合セン ター	ALS療養者 ・家族	約90名
22	木村 美香	小規模特別養護老人ホーム双樹園 秋祭り参加協力	小規模特別養護老人ホーム双樹 園	平成27年10月25日	小規模特別養護 老人ホーム双樹園	—	9名
23	浅見 優子	群馬がん看護研究会 会計	群馬がん看護研究会	平成27年4月～ 平成28年3月	—	患者・医療 者	—

II - 5. 任意団体での活動等

【診療放射線学部】

職位	氏名	活動・テーマ	主催	実施日時 (実施期間)	実施場所	対象者	参加人数
1 教授	下瀬川正幸	医学物理士認定機構 試験委員会 委員	医学物理士認定機構	平成27年度	—	—	—
2		医学物理士認定試験出題基準作成 委員	医学物理士認定機構	平成27年度	—	—	—
3 教授 講師 講師	小倉敏裕 渡部晴之 林則夫	桃の木川堤防の清掃	桃の木リバーを愛する会	平成27年5月30日、8月 25日、11月25日	桃の木川堤防	学生・教員・ 事務局職員	88名
4 教授	佐々木浩二	放射線治療品質管理委員会 外部委 員	慈泉会 相澤病院	平成27年度	慈泉会 相澤病院	—	—
5 准教授	倉石政彦	前橋市桂萱地区地域づくり推進委 員会 フアーマーリモーカーキョウグ部の企 画・運営	前橋市桂萱地区地域づくり推進 委員会	平成27年度	桂萱公民館（活動拠点）	桂萱地区住 民	約80名 ×3回
6		「骨の健康測定会」の企画・運営	前橋市桂萱地区地域づくり推進 委員会	平成27年12月6日	前橋市桂萱公民館	桂萱地区住 民	約150名
7		群馬県立県民健康科学大学診療放 射線学部同窓会役員として同窓会 活動の企画・運営	前橋市桂萱地区地域づくり推進 委員会	平成27年度	本大学（活動拠点）	同窓会員	約1200 名
8		小児甲状腺超音波画像検査活動の 支援	NPO 法人 Annaka ひだまりマル シェ	平成27年度	安中市 法人事務所	希望者	約20名 ×5回
9 准教授	杉野雅人 クラシクル サークル	第43回定期演奏会	群馬県教育ギター・マンドリン 連盟	平成27年9月6日	群馬県生涯学習センター	一般住民	約100名
10 准教授	五十嵐博	群馬県環境アドバイザー	群馬県環境アドバイザー協議会	平成27年4月1日～ 平成28年3月31日	—	—	—

他教育機関非常勤講師

【看護学部】

職位	氏名	活動・テーマ	主催	実施日時 (実施期間)	実施場所	対象者	参加人数
1 教授	田村文子	看護研究－研究計画書の作成－	放送大学 群馬学習センター	平成27年11月7日～8日	放送大学・群馬学習センター	大学生	12名
2 教授	行田智子	妊娠期の助産診断技術学	高崎健康福祉大学大学院	平成27年6月22日	高崎健康福祉大学	大学院生	2名
3 教授	中西陽子	看護学	群馬大学教育学部	平成27年8月24日～8月27日	群馬大学荒牧キャンパス	大学2年生	1名
4 教授	巴山玉蓮	看護管理論	群馬大学大学院保健学研究科保健学専攻看護学領域	平成27年11月7日	群馬大学	大学院生	6名
5		看護の機能と役割（看護政策）	太田高等看護学院	平成27年12月3日	太田高等看護学院	3年生	38名
6 教授	石川良樹	生化学	渋川看護専門学校 1年生	平成27年4月9日～5月14日	渋川看護専門学校	専門学校生	40名
7		薬理学	群馬大学・医学部医学科 3年生	平成27年9月10日	群馬大学	大学生	約110名
8		細胞生物学	群馬大学・医学部医学科 1年生	平成27年12月4日	群馬大学	大学生	約110名
9 教授	狩野太郎	研究の基礎 文献検索入門、研究方法論(1) 調査・実験研究	本庄児玉看護専門学校	平成27年11月30日	本庄児玉看護専門学校	看護学生	40名
10 准教授	大澤真奈美	授業科目「地域看護方法」における講義「精神保健福祉対策と保健師活動」「難病対策と保健師活動」	千葉大学看護学部	平成27年6月25日	千葉大学看護学部	大学3年生	約90名
11		産業保健	足利工業大学看護学部	平成27年9月～12月	足利工業大学看護学部	大学2年生	約80名
12 准教授	森川功	生命倫理	早稲田大学理工学術院	平成27年4月10日～平成27年7月24日	早稲田大学理工学術院	大学生	119名
13		科学技術と倫理	早稲田大学理工学術院	平成27年6月5日～平成27年6月26日	早稲田大学理工学術院	大学生	137名
14		倫理と看護	さいたま市立高等看護学院	平成27年10月30日～平成28年2月26日	さいたま市立高等看護学院	看護学生	35名
15 准教授	飯田苗恵	地域完結型看護実践指導者養成プログラム「看護学実習における教育案」	群馬大学大学院保健学研究科	平成27年7月15日	群馬大学医学部付属病院	履修生、病院看護師	約40名

II - 6. 他教育機関非常勤講師

職位	氏名	活動・テーマ	主催	実施日時 (実施期間)	実施場所	対象者	参加人数
16 准教授	飯田 苗 恵	成人看護学各論Ⅱ(セルフケアの再獲得が必要な人の看護) 非常勤講師	渋川看護学校	平成 27 年 5 月 29 日	渋川看護学校	看護学生	30 名
17 准教授	廣瀬 規代美	成人看護学各論Ⅱ「喉頭がん」	渋川看護専門学校	平成 27 年 5 月 12 日	渋川看護専門学校	看護学生	40 名
18 准教授	清水 裕 子	がん看護学特論「がん看護専門看護師の役割と実際」	群馬大学大学院保健学研究科	平成 27 年 4 月 27 日	群馬大学医学部保健学科	大学院生	5 名
19		がんの医療サービスと社会的支援「がんのチーム医療」	首都大学東京 認定看護師教育課程	平成 27 年 10 月 7 日	首都大学東京	看護師	20 名
20 准教授	鶴生川 恵美子	医療英語	前橋東看護学校	平成 27 年 4 月 16 日～9 月 25 日	前橋東看護学校	看護学生 (1 学年)	27 名
21		「英米の児童文学で学ぶ基礎英語」	放送大学	平成 27 年 4 月 18 日, 25 日	放送大学・群馬学習センター	科目履修生	48 名
22 講師	垣上 正 裕	発達と老化の理解	群馬パース大学福祉専門学校	平成 27 年 4 月 14 日 ～平成 27 年 6 月 23 日	群馬パース大学福祉専門学校	専門学校学生	20 名

【診療放射線学部】

職位	氏名	活動・テーマ	主催	実施日時 (実施期間)	実施場所	対象者	参加人数
1 教授	青木 武 生	解剖生理学の講義 特に骨格、筋、内臓機能、生体防御機構に関して 非常勤講師 6 回	館林高等看護学院	平成 27 年 4 月 17 日 ～平成 27 年 5 月 29 日	館林高等看護学院	館林高等看護学院学生	40 名
2		組織学講義・実習および細胞生物学の講義 非常勤講師	群馬大学医学部	平成 27 年 4 月 7 日 ～平成 28 年 3 月 31 日	群馬大学医学部	医学部学生	100 名
3		解剖生理学の講義 非常勤講師 15 回	群馬県歯科衛生士学院	平成 27 年 4 月 1 日 ～平成 28 年 3 月 31 日	歯科衛生士学校	歯科衛生士学校学生	56 名
4		解剖生理学の 4 年生、国試対策集中講義	群馬県歯科衛生士学院	平成 27 年 10 月 3 日	歯科衛生士学校	歯科衛生士学校学生	56 名
5		病理学総論講義 非常勤講師 7 回	館林高等看護学院	平成 27 年 10 月 19 日 ～平成 27 年 12 月 7 日	館林高等看護学院	—	40 名
6 准教授	倉石 政 彦	診療放射線技術学科における放射線治療技術学に関連する 3 科目の授業	専門学校東洋公衆衛生学院	平成 27 年度	渋谷区 当該学校	2 年生, 3 年生	約 70 名 × 2 学年

職位	氏名	活動・テーマ	主催	実施日時 (実施期間)	実施場所	対象者	参加人数
7	佐々木 浩二	茨城県立医療大学 e-learning 講師 「Tomotherapy による IMRT - システムと品質管理 -」	関東国際がんプロフェッショナル ル養成基盤推進プラン	平成 27 年 10 月 30 日	茨城県立医療大学	医療系大学 院生	—
8	高橋 康幸	核医学実投与量全国調査	医療被ばく研究情報ネットワーク	平成 27 年 6 月 7 日	日本核医学会など	核医学保有 施設	—
9	杉野 雅人	島嶼における環境放射線研究指導	首都大学東京	平成 17 年 8 月～現在	御蔵島	大学生と教 員	8 名
10		簡易測定器を用いた大学構内にお ける空間線量率測定	日本医療科学大学	平成 27 年 10 月 30 日	日本医療科学大学	大学生と教 員	10 名
11	五十嵐 博	医療人間工学	館林高等看護学院	平成 27 年 4 月 20 日～ 平成 27 年 6 月 15 日	館林高等看護学院	看護学生	41 名
12		応用講座 I (画像)	日本医学柔整鍼灸専門学校	平成 27 年 8 月 29 日～ 平成 27 年 12 月 19 日	日本医学柔整鍼灸専門学校	柔道整復学 科学生	30 名

報道記事

報道機関	媒体	全国版・地方版	掲載日時	テーマ
群馬テレビ株式会社	テレビ	「ニュースジャスト6」コメンテーター	平成27年6月25日～6回	本学の紹介、看護の業務、自殺予防とうつ病、妊娠期からの子育て支援、乳がん検診、入浴事故 (教授：巴山玉蓮)
上毛新聞	新聞	「スタイル・eye」 地方版	平成28年2月18日～2回	子供の健康、潜在看護師の再就業 (教授：巴山玉蓮)
上毛新聞	新聞	地方版	平成27年4月1日	群馬大学医学部附属病院の対応について (准教授：森川功)
上毛新聞	新聞	地方版	平成27年12月21日	「アリス」原文楽しむ 健康科学大が公開講座 (准教授 鶴生川恵美子)
上毛新聞	新聞	地方版	平成27年11月20日	教員LGBTの知識 (講師：垣上正裕)
上毛新聞	新聞	地方版	平成27年8月30日	平成27年度第1回公開講座「身近で受けられる高精度放射線治療 - 原理から重粒子線治療まで -」 (教授：佐々木浩二)
上毛新聞	新聞	地方版	平成27年10月10日	群馬県立健康科学大学ギタースークル演奏活動紹介 (准教授：杉野雅人)
群馬建設新聞	新聞	地方版	平成27年11月21日	県桐生森林群森協「ミス」を防ごう 60人が講習会参加 (准教授：五十嵐博)
光ケーブルネット	ケーブルテレビ	地方版	平成28年3月26日～31日 9時～、15時～、23時～ 計18回放映	平成27年度いきいき職場で元気な社会セミナー「うっかりミスはなぜ起きる」 (准教授：五十嵐博)

III 関連規程

群馬県立県民健康科学大学地域連携センター設置運営規程

(設置)

第1条 この規程は、群馬県立県民健康科学大学学則（平成16年群馬県規則第74号）第4条の3第2項の規定に基づき、群馬県立県民健康科学大学地域連携センター（以下「センター」という。）の設置及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 センターは、県立の医療系大学として、大学が所有する知的財産や研究成果等を、県民をはじめ、広く教育機関、医療機関、医療従事者、行政等に対し還元することにより、県民の保健、医療及び福祉の向上に寄与することを目的とする。

(事業)

第3条 センターは、前条の目的を達成するため、次のことに係る事業を実施するものとする。

- (1) 看護学教員養成課程に関すること
- (2) 県内病院等との連携に関すること
- (3) 研究支援に関すること
- (4) 教育・研修に関すること
- (5) 放射線測定等に関すること
- (6) 教育普及に関すること
- (7) その他前条の目的を達成するために必要なこと

(組織)

第4条 センターには、センター長及び副センター長を置く。

- 2 前条に定める事業を推進し、目的を達成するため、地域連携センター運営会議（以下「センター運営会議」という。）を設置する。
- 3 センター運営会議に、前条の事業を実施するため、地域連携センター運営委員会（以下「センター運営委員会」という。）を置く。
- 4 センター運営会議及びセンター運営委員会は、センター長が主宰する。
- 5 副センター長は、センター長を補佐する。

(協議及び報告)

第5条 センター長は、センター事業の運営方針や進捗状況等について、大学運営会議に協議及び報告するものとする。

(事務)

第6条 センター運営会議及び運営委員会の事務は、事務局教務係で処理する。

(委任)

第7条 この規程に定めるもののほか、センターの設置運営に関し必要な事項については、学長が別に定めるものとする。

附 則

この規程は、平成24年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成24年10月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

群馬県立県民健康科学大学地域連携センター運営会議 及び地域連携センター運営委員会設置運営細則

(趣旨)

第1条 この細則は、群馬県立県民健康科学大学地域連携センター設置運営規程第7条の規定に基づき、地域連携センター運営会議（以下「センター運営会議」という。）及び地域連携センター運営委員会（以下「センター運営委員会」という。）の組織及び運営等について必要な事項を定めるものとする。

(センター運営会議の組織)

第2条 センター運営会議は、次の構成員によって組織する。

- (1) 地域連携センター長（以下「センター長」という。）及び副センター長
- (2) 学部長
- (3) センター事業の担当者から互選により選ばれた責任者
- (4) 事務局長
- (5) 学外有識者
- (6) 県職員の内からセンター長が必要と認める者
- (7) その他センター長が必要と認める者

(センター運営会議委員の任期)

第3条 委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

2 委員に欠員が生じた場合の後任委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(センター運営会議の運営)

第4条 センター運営会議は、センター長が招集し、その議長となる。

2 センター長が出席できないときは、センター長が指名する者がその職務を代理する。

3 センター運営会議は、構成員の3分の2以上の出席がなければ開くことができない。

4 センター運営会議の議事は、出席委員の過半数によりこれを決定し、可否同数のときは議長が決定する。

(センター運営会議の審議事項)

第5条 センター運営会議は、次の事項について審議する。

- (1) 地域連携センターの運営方針に関する事項
- (2) 地域連携センターの事業計画の策定及び評価に関する事項
- (3) 地域連携センターに係る規程の制定又は改廃に関する事項
- (4) その他センター長が必要と認める事項

(センター運営委員会の組織)

第6条 センター運営委員会は、次の構成員によって組織する。

- (1) センター長及び副センター長
- (2) 学部長
- (3) センター事業の担当者から互選により選ばれた責任者
- (4) その他センター長が必要と認める者

(センター運営委員会委員の任期)

第7条 委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

2 委員に欠員が生じた場合の後任委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(センター運営委員会の運営)

第8条 センター運営委員会は、センター長が招集し、その議長となる。

- 2 センター長が出席できないときは、センター長が指名する者がその職務を代理する。
- 3 センター運営委員会は、構成員の3分の2以上の出席がなければ開くことができない。
- 4 センター運営委員会の議事は、出席委員の過半数によりこれを決定し、可否同数のときは議長が決定する。

(センター運営委員会の審議事項)

第9条 センター運営委員会は、次の事項について審議する。

- (1) 地域連携センターの運営及び事業の実施に関する事項
- (2) 地域連携センターの事業計画及び評価の検討に関する事項
- (3) 地域連携センターに係る規程の制定又は改廃の検討に関する事項
- (4) その他センター長が必要と認める事項

(委員以外の者の出席)

第10条 センター運営会議及びセンター運営委員会の議長は、会議の運営上必要と認めるときは、委員以外の者に出席を求めることができる。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

平成27年度地域貢献活動報告書

発行者 群馬県立県民健康科学大学

〒371 - 0052 群馬県前橋市上沖町323 - 1

TEL 027 - 235 - 1211

FAX 027 - 235 - 2501

印刷所 上越印刷工業株式会社

